

商標

Autel®、MaxiSys®、MaxiDAS®、MaxiScan®、MaxiTPMS®、MaxiRecorder®および MaxiCheck® は、Autel Intelligent Technology Corp.Ltd.の商標であり、中国、米国およびその 他で登録されています。他のすべてのマークは、それぞれの所有者の商標または登録商標です。

著作権情報

Autel の事前の書面による許可なしに、このマニュアルのいかなる部分も、電子的、機械的、写真複写、記録、またはその他の方法または手段によって、複製、検索システムに保存、または送信することはできません。

保証の免責および責任の制限

このマニュアルのすべての情報、仕様、図は、印刷時に入手可能な最新情報に基づいています。

Autel は、予告なしにいつでも変更を行う権利を留保します。このマニュアルの情報の正確性については慎重に確認しておりますが、製品の仕様、機能、および図の完全性および正確性については保証されません。

Autel は、直接的、特別、偶発的、間接的な損害、または経済的損害 (利益の損失を含む) に対する責任を負いません。


重要

このユニットを操作または保守する前に、このマニュアルを注意深く読み、安全上の警告と注意事項に特に注意してください。

サービスとサポートの場合

 pro.aute.com

www.autel.com

 1-855-288-3587 / 1-855-AUTELUS (北米)

0086-755-86147779 (中国)

 support@autel.com

他の国または地域のユーザーの場合、テクニカルサポートについては最寄りの販売店にお問い合わせください。

安全情報

あなた自身の安全と他者の安全のため、また使用される装置と車両の損傷を防ぐために、このマニュアル全体で示されている安全上の注意事項を、操作または接触するすべての人が読んで理解することが重要です。

車両を整備するためのさまざまな手順、技術、ツール、および部品が必要であり、作業を行う人のスキルも必要です。この装置でテストできる製品には膨大な数のテストアプリケーションとバリエーションがあるため、あらゆる状況に対応するためのアドバイスや安全メッセージを予測または提供することはできません。テスト対象のシステムに精通することは、自動車技術者の責任です。適切な保守方法とテスト手順を遵守することが重要です。あなたの安全、作業エリアの他の人の安全、使用中のデバイス、またはテスト中の車両を危険にさらさない適切で許容可能な方法でテストを実行することが不可欠です。

デバイスを使用する前に、テスト対象の車両または機器のメーカーが提供する安全メッセージと適用可能なテスト手順を常に参照して、それに従ってください。このマニュアルに記載されている方法でのみデバイスを使用してください。このマニュアルのすべての安全メッセージと指示を読み、理解し、従ってください。

安全メッセージ

人体への傷害および機器の損傷を防ぐために、安全メッセージが提供されています。すべての安全メッセージは、危険レベルを示す注意喚起で紹介されています。

危険

回避しないと、オペレーターまたは傍観者が死亡または重傷を負う差し迫った危険な状況を示します。

警告

回避しないと、オペレーターまたは傍観者が死亡または重傷を負う可能性がある潜在的に危険な状況を示します。

安全指示

本書の安全メッセージは、Autel が認識している状況をカバーしています。Autel は、可能性のあるすべての危険を評価または推奨することができません。発生した状態や サービス手順が個人の安全を危険にさらさないことを確認する必要があります。

安全上の警告

- 常に安全な環境で自動車試験を実施してください。
- ANSI 規格に適合する安全保護具を着用してください。
- 衣服、髪、手、道具、試験装置などを、すべての可動部品または高温のエンジン部品に近づけないでください。
- 排気ガスは有毒なので、換気の良い作業エリアで車両を操作してください。
- エンジンを始動する前に、必ずパーキングブレーキをかけ、前輪を車両ブロックで止め、エンジン始動時に車両が前進しないように、ギアレバーをニュートラル

(マニュアルトランスミッション)またはパーキング(オートマチックトランスミッション)にします。

- イグニッションコイル、配電キャップ、イグニッションワイヤーやスパークプラグ周辺での作業には細心の注意を払う必要があります。これらのコンポーネントは、エンジンの稼働中に危険な電圧を生成します。
 - ガソリン、化学薬品、および電気の火災に適した消火器を近くに置いてください。
 - イグニッションがオンになっているとき、またはエンジンが稼働しているときは、テスト機器を接続したり切断したりしないでください。
 - テスト機器を乾燥した清潔な状態に保ち、油、水、またはグリースを含まないようにします。必要に応じて、清潔な布に中性洗剤を使用して、機器の外側を清掃します。
 - 車両を運転すると同時にテスト機器を操作しないでください。事故を引き起こすことがあります。
 - サービス対象の車両のサービスマニュアルを参照し、すべての診断手順と注意事項に従ってください。従わない場合、人身傷害または試験装置の損傷につながる可能性があります。
 - テスト機器の損傷や誤ったデータの生成を防ぐため、車両のバッテリーが完全に充電され、車両の DLC への接続が確実であることを確認してください。
 - テスト機器を車両のディストリビューターに置かないでください。強い電磁干渉は機器を損傷する可能性があります。
-

目次

1 このマニュアルの使用	1
1.1 規則	1
1.1.1 太字	1
1.1.2 用語	1
1.1.3 ヒントと注意事項	1
1.1.4 ハイパーリンク	1
1.1.5 図	1
1.1.6 手順	2
2 製品概要	3
2.1 MAXISysタブレット診断デバイス	3
2.1.1 機能の説明	3
2.1.2 パワー	5
2.1.3 技術仕様	6
2.2 VCI 一車両通信インターフェースデバイス	8
2.2.1 機能の説明	8
2.2.2 技術仕様	9
2.3 アクセサリーの紹介	10
2.3.1 OBDIアダプター (オプション)	10
2.3.2 その他のアクセサリ	11
3 始めに	12
3.1 パワーアップ	12
3.1.1 アプリケーションボタン	14
3.1.2 画面ロケータとナビゲーションボタン	15
3.1.3 システムステータスアイコン	16
3.2 シャットダウン	17
3.2.1 システムを再起動します	17
4 診断	18
4.1 車両通信の確立	18
4.1.1 車両の接続	18
4.1.2 VCI200の接続	19
4.1.3 通信プロンプトなし	20
4.2はじめに	22
4.2.1 車両メニューのレイアウト	22
4.3 車両識別	23

4.3.1	VINの自動認識	24
4.3.2	VINの手動入力をスキャンします	25
4.3.3	ナンバープレート/VINコードをスキャンします	25
4.3.4	手動車両選択	26
4.3.5	代替車両識別方法	27
4.4	診断メインメニュー	27
4.4.1	画面情報	27
4.5	自動スキャン	28
4.5.1	診断ツールバー	28
4.5.2	ページナビゲーションパス	30
4.5.3	ステータス情報バー	31
4.5.4	メインインターフェース	31
4.5.5	機能ボタンバー	33
4.6	コントロールユニット	34
4.7	コンピューター情報の読み取り	35
4.8	DTC	35
4.9	障害コードのクリア	36
4.10	ライフデータ	37
4.10.1	メインインターフェース	37
4.10.2	下部ツールバー	41
4.11	アクティブテスト	44
4.12	特殊機能	44
4.13	一般的なOBDII操作	45
4.13.1	一般的な操作	45
4.13.2	機能の説明	46
5	バッテリーチェック	47
5.1	MaxiBASBT506	47
5.1.1	機能の説明	47
5.1.2	パワー	48
5.1.3	技術仕様	49
5.2	診断の準備	50
5.2.1	バッテリーの確認	50
5.2.2	コミュニケーションの確立	50
5.2.3	バッテリーの接続	50
5.3	車内テスト	52
5.3.1	車載バッテリーの検出	52
5.3.2	スターター検出	55

5.3.3	ジェネレーターの検出	56
5.4	車外検出	57
5.4.1	オフボードバッテリー検出	59
6	データ管理	59
6.1	車両履歴	60
6.1.1	履歴テスト	61
6.2	ワークショップ情報	63
6.3	顧客管理	64
6.4	写真	65
6.5	レポート	66
6.6	PDFファイル	66
6.7	データ再生	66
6.8	アプリのアンインストール	66
6.9	データロギング	66
7	設定	67
7.1	ユニット	67
7.2	言語	68
7.3	印刷設定	68
7.3.1	印刷設定	68
7.4	レポート設定	69
7.5	自動更新	69
7.6	ADAS設定	69
8	VCI管理	71
8.1	VCIBluetooth接続	71
8.2	BASBluetooth接続	72
8.3	VCIアップデート	72
8.4	BASアップデート	73
9	アップデート	74
10	サポート	76
10.1	マイアカウント	76
10.1.1	個人情報	76
10.1.2	更新情報	76
10.1.3	メンテナンス記録	77
10.2	トレーニング	77
10.3	データロギング	77
10.4	よくある質問	77
11	リモートデスクトップ	78

11.1	操作	78
12	ユーザーフィードバック	80
13	機能クエリ	81
14	HD内視鏡検査	83
14.1	追加のオプションアクセサリ	84
14.1.1	イメージングヘッドケーブル	84
14.1.2	イメージングヘッドアクセサリ	84
14.1.3	付属品の組み立て方法	85
14.1.4	技術仕様	86
14.2	操作	87
15	オシロスコープ	88
16	クイックリンク	89
17	メンテナンスとサービス	90
17.1	メンテナンス手順	90
17.2	クイック修理ガイド	90
17.3	バッテリー使用量	91
17.4	サービスプロセス	92
17.4.1	テクニカルサポート	92
17.4.2	メンテナンスサービス	92
17.4.3	その他のサービス	93
18	保証	94

1 このマニュアルの使用

このマニュアルには、デバイスの使用方法が記載されています。

このマニュアルに示されている図には、システムに含まれていないモジュールやオプション機器が含まれている場合があります。

1.1 規則

次の規則を使用しています。

1.1.1 太字

太字のテキストは、ボタンやメニューオプションなどの選択可能な項目を強調するために使用されます。

例:

- [**OK**]をタップします。

1.1.2 用語

「選択」という用語は、ボタンまたはメニュー項目を強調表示し、それをクリックして選択を確認することを意味します。

1.1.3 ヒントと注意事項

ご注意

ご注意は、追加の説明、ヒント、コメントなどの役立つ情報を提供します。

重要

重要は、回避しないとタブレットまたは車両に損傷を与える可能性がある状況を示します。

1.1.4 ハイパーリンク

他の関連記事、手順、および図へのハイパーリンクまたはリンクは、電子文書で入手できます。青色の斜体テキストは選択可能なハイパーリンクを示し、青色の下線付きテキストはウェブサイトリンクまたは電子メールアドレスリンクを示します。

1.1.5 図

このマニュアルで使用されているイラストはサンプルであり、実際のテスト画面はテスト対象の車両ごとに異なる場合があります。メニューのタイトルと画面の指示に従って、正しいオプションを選択してください。

1.1.6 手順

矢印アイコンは手順を示します。

例:

➤ カメラを使用するには:

1. [カメラ]ボタンをクリックしてカメラインターフェースを開きます。
2. ファインダーで撮影する画像にピントを合わせます。
3. 画面右側のカメラアイコンをタップして写真を撮ります。ファインダーに撮影した写真が表示され、自動的に保存されます。
4. 画面の右上隅にあるサムネイルをタップして、保存されている画像を表示します。
5. [戻る]または[ホーム]ボタンをクリックして、カメラアプリケーションを終了します。

2 製品説明

MaxiSys MS906 Proは、携帯性に優れ、シンプルなデザインと優れた性能を備えた新世代の自動車用インテリジェント診断機器です。SDM660 / SDA660オクタコアプロセッサを使用し、8インチTFT-LED静電容量式タッチスクリーンを搭載し、長距離無線通信を実行できます。

MaxiSysシステムは2つの部分で構成されています。

- MaxiSys タブレット診断機器-診断システムの中央処理装置とモニター
- VehicleCommunicationInterface (VCI) -車両データにアクセスして取得するために使用される機器

このマニュアルでは、製品の構造と、各デバイスを組み合わせて診断ソリューションを取得する方法について説明します。

2.1 MaxiSysタブレット診断機器

2.1.1 機能の説明

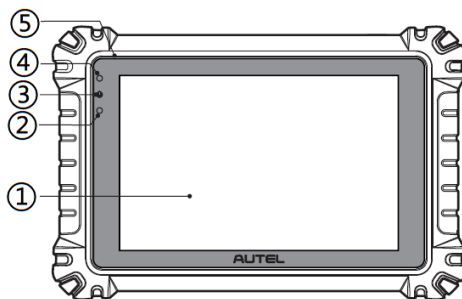


図2-1 MS906 Proタブレットの正面図

- ①8.0インチ LED 容量性タッチスクリーン
- ②周囲光センサー-周囲の明るさを検出します
- ③電源LEDインジケータ
- ④フロントカメラ
- ⑤マイク

表21 - MaxiSysタブレット診断デバイスの電源インジケータの説明

LED	色	説明する
電源	緑	充電中、バッテリー残量は 90%以上の場合、緑色のライトが常に点灯します。電源が入っているときは、電源が 15%を超える場合、緑色のライトが常に点灯します。
	黄	充電中、バッテリー残量は 90%未満で、黄色のライトが常に点灯します。
	赤	電源が入っているとき、バッテリー残量は 15%未満の場合、赤いライトは常に点灯しています。

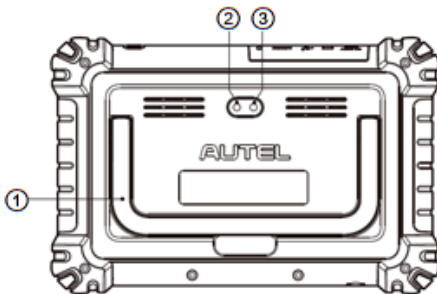


図 2-2 MS906 Proタブレットの背面図

①折りたたみ式スタンド-背面に取り付けてあり、30度の角度でタブレットをハンズフリーで見ることができます。

②リアカメラ

③カメラのフラッシュ

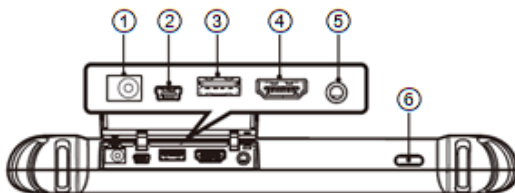


図 2-3 MS906 Proタブレットの上面図

- ①電源ソケット
- ②USBポート
- ③USBポート
- ④HDMI 接口
- ⑤ヘッドホンジャック (3セグメント3.5mm)

◇ ロック/電源ボタン-長押ししてタブレットのオンとオフを切り替えるか、短押しして画面をロックします

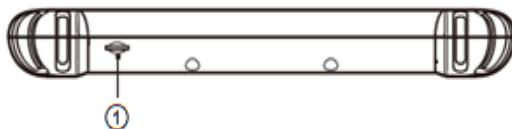


図 2-4 MS906 Proタブレットの下面図

- ①マイクロ SD カードスロット

2.2

2.3

MaxiSys タブレットは、次のソースのいずれかから電力を受け取ることができます:

- 内蔵バッテリーパック
- AC / DC電源
- 車両電源

内蔵バッテリーパック

タブレットには内部充電式バッテリーで電力を供給できます。完全に充電すると、約 8 時間の連続動作に十分な電力を供給できます。

AC/DC電源

タブレットは、AC / DC 電源アダプターを使用してコンセントから給電できます。AC / DC 電源は、内部バッテリーパックも充電します。

車両電源

タブレットは、直接ケーブル接続を介して、シガレットライターまたはテスト車両の他の適切な電源ポートから電力を供給できます。車両の電源ケーブルは、ディスプレイユニットの上部にある DC 電源ポートに接続します。

2.3.1 技術仕様

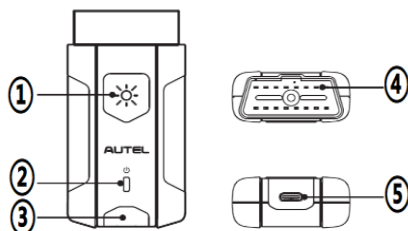
表22タブレット-診断機器の技術仕様

アイテム	説明
操作システム	Android 10
プロセッサ	2.3GHz+1.7GHz
メモリー	4GB RAM&128GB
ディスプレイ	8インチLCD静電容量式タッチスクリーン、 1920 x1200解像度
接続性	<ul style="list-style-type: none">● Wi-Fi(802.11 b/g/n)● USB2.0● Mini USB2.0● Bluetooth V2.1 + EDR● HDMI● SDカード
カメラ	<ul style="list-style-type: none">● リアカメラ： 1600万ピクセル、フラッシュオートフォーカス付き● フロントカメラ： 1600万ピクセル
センサー	<ul style="list-style-type: none">● 重力加速度計● 周囲光センサー (ALS)
オーディオ入力/出力	<ul style="list-style-type: none">● マイク● ロフォン● スピーカー● 3セグメント3.5mmステレオ/標準フォンジャック
電源とバッテリー	<ul style="list-style-type: none">● 11,600mAh, 3.7Vリチウムポリマー電池● 12Vアダプター充電
入力電圧	12V (9 – 35V)
消費電力	5W
作動温度	0 –50°C (32 –122 ° F)
保管温度	-10 –60°C (14 –140 ° F)

アイテム	説明
寸法 (LxWxH)	260mm x 170mm x 30mm
重量	<ul style="list-style-type: none"> ● MS906 Pro重量: 920グラム
プロトコル	ISO 9142-2、ISO 14230-2、ISO 15765-4、K-Line、L-Line、Flashing Code、SAE-J1850 VPW、SAE-J1850 PWM、CAN ISO 11898、High speed、Middle speed、Low speed and Single wire CAN、GM UART、UART Echo Byte Protocol、Honda Diag-H Protocol、TP 2.0、TP 1.6、SAE J1939、SAE J1708、Fault-Tolerant CAN

2.4 VCI-車両通信インターフェース

2.4.1 機能説明



- ① 照明ボタン
- ② 電源インジケータ
- ③ 接続インジケータ
- ④ 車両診断インターフェース（16ピンコネクタ）
- ⑤ USBポート

表23 V200-電源/接続インジケータの説明

インジケータランプ	色	説明
電源インジケータ	黄色	電源入る時黄色に点灯します。
	緑	問題がない時緑色のランプが点灯します。
	赤	ファームウェアのアップグレード中は、赤いライトが点滅します。
接続インジケータ	緑	USB接続時に緑色に点灯します。
		データ通信中は緑色のライトが点滅します。
	青	ブルートゥースを接続すると青色に点灯します。
		データ通信中は青色のライトが点滅します。

2.4.2 技術仕様

表24V200-の技術仕様




事業	説明する
接続方法	<ul style="list-style-type: none">● Bluetooth + EDR● Type-C USB
無線受信周波数	2.4GHz
入力電圧	8~30V DC _
定格電流	150mA @ 12V DC
作動温度	0 – 50 °C (32 – 122°F)
保管温度	-10 – 60 °C (14 –140 °F)
寸法 (LxWxH) _ _ _	89.89mm x 46.78mm x 21mm
重量	70.7g
内蔵バッテリー	3.7Vリチウム電池 (ライトのみ)

2.5 アクセサリー紹介

2.5.1 OBDIアダプター (オプション)

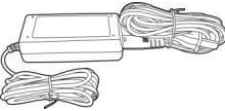
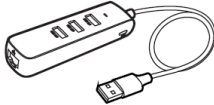
OBDI タイプのアダプターは、非 OBDII 車両用です。使用するアダプターは、テストする車両のタイプによって異なります。最も一般的なアダプターを以下に示します (アダプターは別売りの場合があります。詳細については、販売代理店にお問い合わせください)。

表25オプションのOBDI-アダプター

	ベンツ-14		シトロエン-2
	クライスラー-16		マツダ-17
	BMW -20		フォルクスワーゲン/ アウディ-2+2
	日産-14		ベンツ-38
	起亜-20		三菱/ヒュンダイ- 12+16
	フィアット-3		

2.5.2 その他の付属品

表26 その他のアクセサリ

	タイプ-C USBケーブル タブレット診断機器とVCIを接続します。
	電源アダプタ タブレットを電源用の外部 DC 電源ポートに接続します。
	ライター 一部の非 OBDII 車両は、DLC 接続を介して電力を供給できないため、車両のシガレットライターレセプタクルへの接続を介してタブレットまたは VCI デバイスに電力を供給します。
	ヒューズ (2個) 自動車用電源ソケットの安全装置。
	USB イーサネットアダプター デバイスをイーサネットネットワークに接続します。

3 スタートするには

タブレットに十分な電力があるか、外部電源に接続されていることを確認してください。

3.1 パワーアップ

タブレット診断装置の右上にある**[電源/ロック画面]**ボタンを長押しして、装置の電源を入れます。システムを起動すると、MaxiSys ジョブメニューが表示されます。



① アプリケーションボタン

② ページングアイコンとナビゲーションボタン

③ システムステータスアイコン

🔗 ヒント

システム情報を保護し、バッテリー消費を減らすために、デバイスを使用していないときはいつでも画面をロックすることをお勧めします。






タブレット診断デバイスのすべての操作は、タッチスクリーンを介して実行されます。診断プログラムは主にメニュー選択によってガイドされ、ユーザーはプログラム操作またはデータ検索を実行するための一連のオプションを選択します。以降の章では、それに応じて各アプリケーションのメニュー操作について説明します。

3.1.1 アプリケーションメニュー

ユーザーは、アプリケーションメニューからさまざまなアプリケーションを実行することを選択します。次の表で、システムアプリケーションについて簡単に説明します。

表31-アプリケーションボタンの説明












ボタン	名称	説明
	診断	ユニットの診断機能にアクセスします。
	メンテナンス	特殊機能メニューにアクセスします。「サービス」を参照してください。
	ADAS	ADAS システムメニューにアクセスします。
	バッテリーテスト	バッテリーテストメニューにアクセスします。
	データマネジャー	詳細な車両診断やテスト記録履歴など、保存されたワークショップ、消費者、車両データにアクセスします。
	設定	システム設定メニューと一般的なタブレットメニューにアクセスします。
	VCIマネジャー	VCI 接続メニューにアクセスします。
	アップデート	システムソフトウェアの更新メニューにアクセスします。
	サポート	Autel のオンラインサービスデータベースを MaxiSys タブレットと同期します。
	リモートデスクトップ	TeamViewer アプリケーションを使用してリモートサポートを受けるようにユニットを設定します。
	ユーザーフィードバック	ユーザーは、この機能を介して関連する質問を送信できます。

ボタン	名称	説明
	GW認証	一部のモデルのセキュリティゲートウェイ機能のロック解除認証を提供します。
	機能閲覧	サポートされている機能や車両のクイック検索を提供します。
	デジタル検査	イメージングヘッドケーブルを接続することにより、高解像度の内視鏡操作を行い、車両を注意深く検査することができます。
	オシロスコープ	ハイブは自動車のオシロスコープとして動作し、電気および電子回路のテストを実行し、信号アクティビティを監視します。
	クイックリンク	クイックリンク製品の更新、サービス、サポート、およびその他の情報にすばやくアクセスできるように、関連する Web サイトのブックマークを提供します。

3.1.2 画面ロケータとナビゲーションボタン

画面下部のナビゲーションボタンの操作について、以下の表で説明します：

3.1.3 表32-画面ロケータとナビゲーションボタンの説明

ボタン	名称	説明
	ロケータ	画面の場所を示します。前または次の画面を表示するには、画面を左右にスワイプします。
	戻る	前の画面に戻ります。
	Maxisysホームページ	MaxiSysシステムの画面に戻ります。
	Androidホームページ	Androidシステムの画面に戻ります。
	最近使用したアプリ	在動作しているアプリケーションのリストを表示します。アプリのアイコンをタップして起動します。アプリを削除するには、右にスワイプします。
	ブラウザ	Chrome インターネットブラウザを起動します。
	カメラ	短押しでカメラを開きます。長押しでスクリーンショット画像を取得して保存します。保存されたファイルは、後で確認できるようにデータマネージャーアプリケーションに自動的に保存されます。
	ディスプレイとサウンド	画面の明るさと音声出力の音量を調整します。
	VCI管理	VCI 管理プログラムインターフェイスを開きます。右下隅の緑色のアイコンは、VCI デバイスが接続されていることを示します。接続に失敗すると、赤色の「X」アイコンが表示されます。バッテリーステータスアイコンは、残りの電力を示します。
	MaxiSys ショートカット	診断画面に戻ります。
	サービス	サービス画面に戻ります。

➤ カメラの使い方

1. カメラボタンをタップします。カメラ画面が開きます。
2. ビューファインダーでキャプチャする画像の焦点を合わせます。
3. 画面右側のカメラアイコンをタップして写真を撮ります。ファインダーに撮影した写真が表示されます。そして自動的に保存します。
4. 画面の右上隅にあるサムネイル画像をタップして、保存されている画像を表示します。
5. 戻るまたは[ホーム]ボタンをタップして、カメラアプリケーションを終了します。










3.1.4 システムステータスアイコン

これらは、Androidオペレーティングシステムの標準のステータスアイコンです。MaxiSys ディスプレイタブレットは、完全に機能するAndroidパッドです。詳細については、Androidのドキュメントを参照してください。

📢 知らせ

ショートカットボタンが有効になっている場合、ボタンは強調表示されます。ショートカットボタンが無効になっている場合、ボタンはグレー表示されます。

表33-ショートカットボタンの説明

ボタン	名称	説明
	WLAN	Wi-Fiを有効または無効にします。
	ブルートゥース	Bluetoothを有効または無効にします。
	電量	タブレット診断デバイスの現在のバッテリーレベルを表示し、クリックして「省電力モード」をオンまたはオフにします。
	サイレントモード	サイレントモードを有効または無効にします。
	ライト	ライトをオンまたはオフにします。
	自動回転	画面の自動回転モードを有効または無効にします。
	機内モード	機内モードを有効または無効にします。
	位置情報	ロケーション機能を有効または無効にします。
	Logger	すぐに「MaxiTools」画面に入ります。

3.2 シャットダウン

タブレットをシャットダウンする前に、すべての車両通信を終了する必要があります。タブレットが車両と通信している間にシャットダウンが試行されると、警告メッセージが表示されます。タブレットの通信中に強制的にシャットダウンすると、一部の車両で ECM の問題が発生する場合があります。タブレットの電源を切る前に、診断アプリケーションを終了してください。

➤ **MaxiSys タブレットの電源を切るには:**

1. ロック/電源ボタンを長押しします。
2. 電源オフオプションをタップします。
3. OK をタップします。

3.2.1 再起動システム

システムがクラッシュした場合は、ロック/電源ボタンを長押しし、再起動をタップしてシステムを再起動します。

4 診断

診断アプリケーションは、エンジン、トランスミッション、アンチロックブレーキシステム (ABS)、エアバッグシステム (SRS) など、さまざまな車両制御システムの電子制御モジュールにアクセスできます。

4.1 車両通信を確立する

診断操作では、メインケーブルを使用して VCI デバイスを介して MaxiSys906Pro 診断タブレットをテスト車両に接続する必要があります。(必要に応じて、該当する OBDI タイプのアダプターを使用してください)。タブレットとの適切な車両通信を確立するには、次の手順を実行する必要があります:

1. 通信と電源供給のために VCI デバイスを車両診断ソケットに接続します。
2. BluetoothまたはUSBケーブルを介してVCIとタブレットに接続します。
3. 画面の下部にあるVCIナビゲーションボタンを見てください。ボタンの右下隅に緑色のロゴが表示されている場合、診断システムは車両診断を開始する準備ができています。

4.1.1 車両接続

VCI デバイスを車両の DLC に接続するために使用される方法は、次のように車両の構成によって異なります:

- OBDII システムと互換性のある車両は、標準の J-1962 診断ソケットを介して通信し、12V の電力を供給します。
- OBDII システムと互換性のない車両は、OBDI アダプター接続を介して通信し、場合によっては、シガレットライターソケットまたは車両バッテリーを接続することによって 12V の電力を供給します。

4.1.1.1 OBDII車両の接続

このタイプの接続には、追加のアダプターなしでメインケーブルのみが必要です。

➤ OBDII車両の接続方法

1. メインケーブルのメスアダプタをディスプレイタブレットの車両 データコネクタに接続し、拘束ネジを締めます。
2. ケーブルの16 ピンオスアダプターを車両診断ソケットに接続します。これは通常、車両ダッシュボードの下部にあります。

🔗 ヒント

車両の DLC は常にダッシュの下にあるとは限りません。追加の接続情報については、テスト車両のユーザーマニュアルを参照してください。

4.1.1.2 非OBDII車両接続

このタイプの接続には、メインケーブルとサービス対象の特定の車両に必要な OBDI アダプターの両方が必要です。

➤ 非OBDII車両を接続する方法

1. メインケーブルのメスアダプタをディスプレイタブレットの車両 データコネクタに接続し、非脱落型ネジを締めます。
2. 必要な OBD I アダプターを見つけ、その 16 ピンジャックをメイン ケーブルのオスアダプターに接続します。
3. 接続されたOBDIコネクタを車両診断ソケットに接続します。

🕒 ヒント

一部の車両には、複数のアダプターいる場合や、アダプターの代わりにテストリード がある場合があります。必要に応じて、車両に適切に接続する必要があります。

➤ シガレットライターへの接続方法

1. シガレットライターの電源コネクタをデバイスの電源ソケットに差し込みま ず。
2. シガレットライターのオスアダプターを車両のシガレットライターソケット に挿入します。

4.1.2 VCIを接続する

V200が車両に接続された後、デバイスの電源インジケータは点灯したままになり、V 200がMS906Proタブレットとの通信を確立する準備ができていることを示します。 V 200は、タブレットと通信するための2つの方法をサポートしています。Bluetooth ペ어링とUSB接続です。

4.1.2.1 Bluetooth経由のペアリング

Bluetoothペアリングは、MS906 ProタブレットとV200の間の通信に推奨される方 法です。これにより、ワークショップで車両診断をより自由に実行できます。

顧客が多いときに複数の VCI デバイスを使用してテスト車両に接続する場合、BT を 介して異なるテスト車両に接続された各 VCI デバイスにタブレットを個別にペアリン グすることにより、さまざまな車両で車両診断を便利に実行できます。従来 の有線接 続では避けられなかった、接続と接続解除の手順を繰り返す必要がない ため、より多 くの時間を節約し、より効率的になります。

➤ Bluetooth経由でMS906ProSタブレットとV200間の通信を確立する方法

1. MS906 Proタブレット診断の電源を入れます。
2. MaxiSysプログラムメニューの[VCIマネージャー]アプリケーションを選択し ます。
3. 「VCIマネージャー」アプリケーションを開くと、デバイスは自動的に利用可

能なV200デバイスをスキャンし、Bluetoothとペアリングします。スキャンしたデバイスは、画面右側の「Bluetooth」画面に表示されます。

🔍 ヒント

VCIデバイスが見つからない場合は、信号強度が弱すぎて検出できない可能性があります。VCI デバイスの位置を変更し、信号干渉を引き起こす可能性のあるすべてのオブジェクトを削除します。右上隅にある[スキャン]ボタンをタップして、VCI を再スキャンします。

4. 通常、VCI デバイス名は、シリアル番号がサフィックスとして付いた **Ma xi** として表示されます。ペアリングする VCI デバイスを選択します。
5. ペアリングが成功すると、接続ステータスが「接続済み」と表示されます
6. 数秒待つと、画面下部のナビゲーションバーの[**VCI**]ボタンに緑色のロゴが表示されます。これは、タブレット診断デバイスがVCIデバイスに接続されており、いつでも車両診断を開始できることを示します。

4.1.2.2 USB経由で接続

タブレット診断機器とVCI機器間の通信の最も簡単で便利な方法です。タブレット診断デバイスをUSBケーブルでVCIデバイスに接続すると、画面下部のナビゲーションバーの[**VCI**]ボタンに緑色のマークが表示され、タブレット診断デバイスがVCIに接続されたことを示します。デバイスであり、いつでも車両診断を開始できます。

🔍 ヒント

USB接続が最も安定した通信接続です。したがって、ECUプログラミングまたはコーディングを操作するときは、USBを使用してタブレット診断機器とVCIを接続することをお勧めします。USB通信方式は、接続されている他の通信方式よりも優先されます

4.1.3 通信メッセージなし

◇ タブレットが VCI に接続できない場合、「エラー」メッセージが表示されます。「エラー」メッセージは、タブレットが VCI デバイスと通信していないことを示します。次の手順を実行して、エラーのトラブルシューティングを行ってください：

- VCIデバイスの電源がオンになっていることを確認します。
- ワイヤレス接続の場合は、ネットワーク構成が正しく、ペアリングされたデバイスが正しいことを確認してください。
- 診断中にタブレットが突然通信を失った場合は 信号の中断を引き起こしているオブジェクトがないことを確認してください。
- VCI 機器が正しく配置されていること、および VCI 機器が上向きに配置されていることを確認します。
- より安定した信号とより速い通信速度のために、VCIデバイスにできるだけ近づけるようにしてください。

- 有線接続を使用する場合は、ケーブルが VCI にしっかりと接続されていることを確認してください。
 - VCIデバイスの接続ライトが点灯していることを確認します。
- ◇ VCI デバイスが通信リンクを確立できない場合、メッセージにトラブルシューティング手順が表示されます。通信エラーの考えられる原因は次のとおりです：
- VCIデバイスは車両との通信接続を確立できません。
 - 選択したシステムが車両に装備されていません。
 - 車両またはVCIコネクタが緩んでいます。
 - 車両のヒューズが飛んでいます。
 - 車両、データケーブル、またはコネクタの配線に問題があります。
 - データケーブルまたはコネクタに回路障害があります。
 - 入力された車両識別番号が正しくありません。

4.2 スタートするには

診断アプリケーションを最初に使用する前に、VCI デバイスがタブレットに正しく 接続され、通信していることを確認してください。

4.2.1 車両メニューレイアウト

VCIデバイスが車両に接続され、診断デバイスと正常にペアリングされると、車両の診断を開始できます。 MaxiSysメニューの**[診断]**ボタンをクリックして、**車両メニュー**を開きます。



①上部のツールバーボタン

図4-1 車両メニュー画面のサンプル









②メーカーのボタン

4.2.1.1 上部のツールバーボタン

画面上部のツールバーボタンの操作を以下の表にリストして説明します：

表41 - 上部のツールバーボタン

ボタン	名称	説明
	ホーム	MaxiSysプログラムメニューに戻ります。
	VIDスキャン	<p>このボタンをクリックすると、ドロップダウンメニューリストが開きます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 【自動検出】：自動VINコード検出を行います。 ● 【手動入力】：VINコードを手動で入力します。 ● 【ナンバープレート/VINコードをスキャン】：ナンバープレートまたはVINコードをスキャンして車両情報を特定します。

ボタン	名称	説明
	すべて	車両メニューにすべての車両ブランドを表示する。
	お気に入り	車両メニューによく使用する車両ブランドを表示する
	履歴	テストされた車両タイプの保存されたテストレコードを表示します。このオプションは、以前に診断セッションを実行したテスト車両への直接アクセスを提供します。
	アメリカ	アメリカ車のメニューを表示します。
	ヨーロッパ	ヨーロッパ車のメニューを表示します。
	アジア	アジアの車のメニューを表示します。
	検索	このボタンをクリックして仮想キーボードを開き、検索に必要な特定の車両ブランドを手動で入力します。
	キャンセル	このボタンをクリックして検索画面を終了するか、操作をキャンセルします。

4.2.1.2 メーカーボタン

製造業者ボタンには、さまざまな車両のブランド名が表示されます。VCI デバイスがテスト車両に正しく接続された後、診断セッションを開始するために必要なメーカーボタンを選択します。

4.3 車両識別

MaxiSys 診断システムは、車両識別の 5つの方法をサポートしています。

- 自動 VIN スキャン
- 手動VIN入力
- ナンバープレート/VINコードをスキャンする
- 手動車両選択
- OBD 直接アクセス手動入力

4.3.1 自動 VIN スキャン

MaxiSys 診断システムは、最新の VIN ベースの自動 VIN スキャン機能を備えており、ワンタッチで CAN 車両を識別します。これにより技術者は正確な車両をすばやく検出し、すべての車両の診断可能な ECU をすべてスキャンし、選択したシステムで実行できます。

➤ 自動 VIN スキャンを実行するには

1. MaxiSys プログラムメニューから診断アプリケーションボタンをタップします。車両メニューが表示されます。
2. 上部のツールバーの VIN スキャンボタンをタップします。
3. 自動検出を選択します。テスターは、車両の ECU で VIN スキャンを開始します。テスト車両が正常に識別されると、システムは車両診断画面に直接案内します。

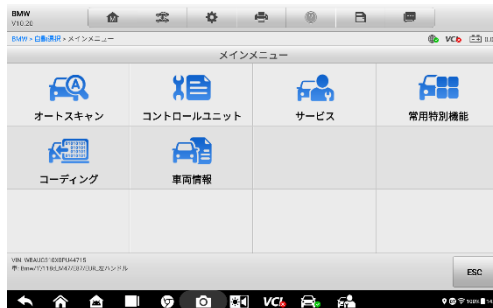


図42 - 車両診断画面サンプル

自動VINスキャン

自動選択を選択すると、システムは自動的に VIN 情報を取得するか、ユーザーが手で VIN を入力できるようにします。

➤ 自動車両アクセスを行う方法

1. MaxiSys プログラムメニューから診断アプリケーションボタンをタップします。車両メニューが表示されます。
2. 上部のツールバーの VIN スキャンボタンをタップします。
3. 車両メニューから**メーカー**ボタンをクリックします。
4. 自動検出を選択します。テスターは、車両の ECU で VIN スキャンを開始します。テスト車両が正常に識別されると、システムは車両診断画面に直接案内します。
5. 表示された車両情報が正しいことを確認し、確認画面で以下を選択します。
 - a) [OK]をクリックして確定します。システムは「メインメニュー」画面に切り替わります。
 - b) [戻る]をクリックして、車両選択メニューに戻ります。

4.3.2 VINを手動で入力

自動VINスキャン機能をサポートしていない車両の場合、MaxiSys診断システムはVINコードを手動で入力する識別方法もサポートしています。

➤ VINを手動で入力する方法

1. MaxiSysプログラムメニューの[診断]アプリケーションボタンをクリックします。
2. 上部ツールバーの[VID]ボタンをクリックします。
3. [手動入力]をクリックします。
4. 入力ボックスに正しいVINコードまたはナンバープレートを入力します。



図43 - 「手動入力」インターフェース図

5. [OK]をクリックすると、システムは手動で入力されたVINまたはナンバープレートを通じて車両を認識します。識別が成功すると、システムはユーザーを直接「メインメニュー」画面に入るように案内します。
6. キャンセルをタップして、手動入力を終了します。

4.3.3 スキャン VIN /ライセンス

ドロップダウンリスト (図 43) で[VIN/ライセンスのスキャン]をタップすると、カメラが開きます。画面の右側で、上から下に、バーコードのスキャン、VIN のスキャン、ライセンスのスキャンの 3つのオプションを使用できます。

🔍 ヒント

スキャンライセンスの方法は、一部の国と地域でサポートされています。ライセンス番号が利用できない場合は、手動で入力してください。

3つのオプションのいずれかを選択し、タブレットを配置してスキャンウィンドウ内でVIN またはライセンス番号を揃えます。スキャン後に結果が[認識結果]ダイアログボックスに表示されます。[OK]をタップして結果を確認すると、タブレットに車両情報確認画面が表示されます。すべての車両情報が正しい場合は、画面中央のアイコンをタップしてテスト対象の車両のVINを確認し、[OK]をタップして続行します。

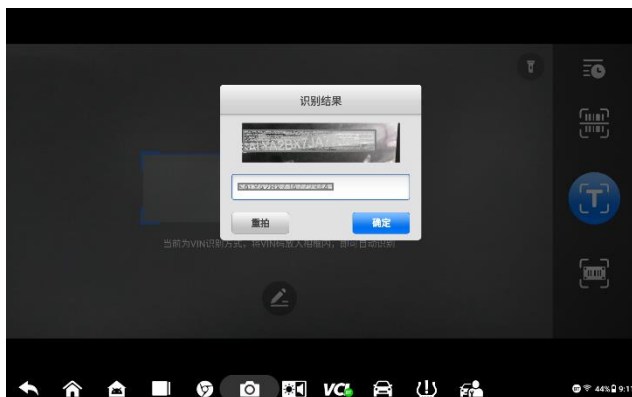


図 4-4 スキャン VIN コード 1 のサンプル

VIN/ライセンス番号をスキャンできない場合は、VIN /ライセンス番号を手動で入力してください。[OK]をタップして続行します。ライセンス番号を手動で入力し、車両情報確認画面で車両ブランドを選択します。画面中央の診断アイコンをタップしてテスト対象の車両の VIN を確認し、[OK]をタップして続行します。

4.3.4 手動車両選択

車両の VIN が車両の ECU から自動的に取得できない場合、または特定の VIN が不明な場合は、車両を手動で選択できます。

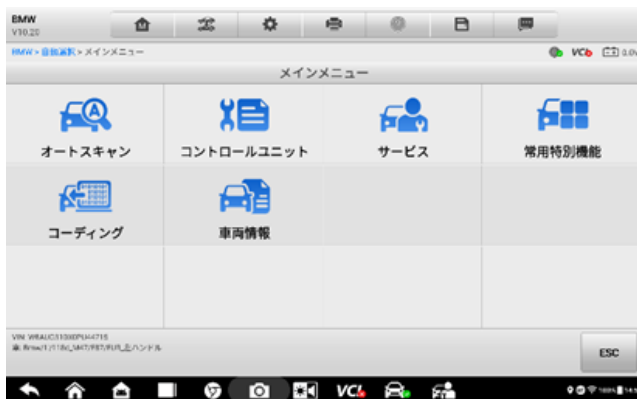


図 4-5 手動車両選択画面のサンプル

4.3.4.1 段階的な車両選択

段階的な車両選択モードは、メニューガイドモードです。車両メニュー画面の[メーカー]アイコンを選択すると、車両選択画面が開きます。画面左側の[手動選択] ボタンをクリックしてください。ブランド、モデル、排気量、エンジンタイプ、車両年式など、同じ画面で車両情報を選択します。必要に応じて、[戻る]ボタンをクリックしてください。

4.3.5 代替車両識別

場合によっては、テスターが認識しないテスト車両を特定することがあります。データベースがサポートしていないか、テスターと通信することを妨げるいくつかの原因が考えられます。これらのインスタンスでは、OBD ダイレクトエントリが提供され、これを介して一般的な OBDII または EOBD テストを実行できます。

4.4 診断画面レイアウト

診断アプリケーションは、車両の診断と保守のために、VCIデバイスを介してテスト車両の電子制御システムとのデータ接続を確立できます。エンジン、トランスミッション、アンチロックブレーキシステムなどのさまざまな車両制御システムにアクセスして、機能テストを実行し、車両診断情報（障害コード、イベントコード、データストリームなど）を読み取ります。

車両情報を選択後、画面右下の**「はい」ボタンをクリックして車両情報を確認し、「メインメニュー」ページを開きます。**このセクションには、**「自動スキャン」**や**「コントロールユニット」**など、一般的に使用されるさまざまな機能が含まれています。表示される機能は車両によって異なります。

4.4.1 画面情報

を実行する過程で、システムがユーザーに操作の確認を要求する場合、主に、確認メッセージ、警告メッセージ、エラーメッセージの3種類のプロンプトメッセージがさまざまな状況に応じて含まれます。

4.4.1.1 情報を確認する

この種のプロンプトは通常、「情報」インターフェースに表示されます。進行中または今後の操作を続行するかどうかを確認する必要がある場合、確認メッセージが表示され、ユーザーに確認を促します。

4.4.1.2 警告メッセージ

警告は、元に戻せない特定のアクションが実行されたときに表示され、回復不能またはデータの損失につながる可能性があります。典型的な例は、「ClearDTCs」が実行されたときに表示される警告メッセージです。

4.4.1.3 エラーメッセージ

システムまたはプログラムのエラーが発生した場合、エラーメッセージが表示されます。デバイスの接続が切断されたり、何らかの理由で通信が中断されたりすると、エラーメッセージが表示されます。

4.5 自動スキャン

「自動スキャン」機能は、車両のECU上のすべてのシステムの包括的なスキャンを実行して、障害のあるシステムを特定し、障害コードを読み取ります。次の図は、自動スキャン機能の操作画面を示しています。

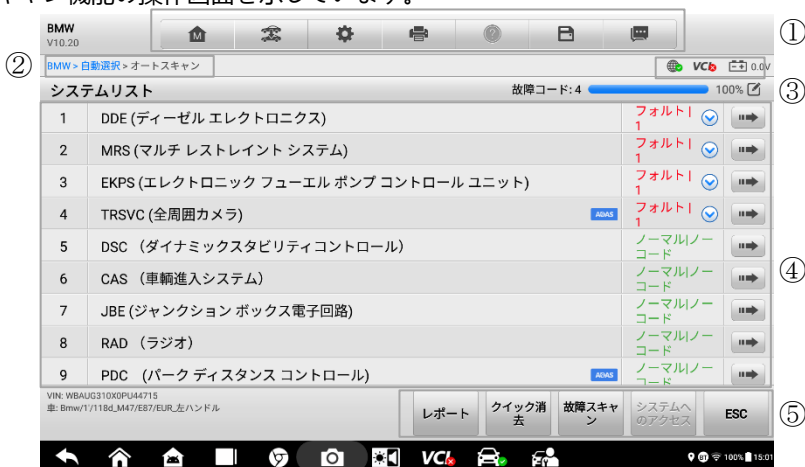




図 4-6 自動スキャン画面のサンプル






- ①診断ツールバー
- ②現在のディレクトリパス
- ③ステータス情報バー
- ④メインセクション
- ⑤機能ボタン

4.5.1 診断ツールバー

診断ツールバーには、表示されたデータを印刷または保存したり、その他の操作を実行したりできるボタンが含まれています。次の表に、[診断]ツールバーボタンの操作の簡単な説明を示します：

表42診断-ツールバーボタンの説明

ボタン	名称	説明
	ホーム	MaxiSysプログラムメニューに戻ります。
	車両切り替え	診断セッションを終了し、車両メニュー画面に戻って、テストする別の車両を選択します。

ボタン	名称	説明
	設定	設定画面を開きます。
	印刷	保表示されたデータのコピーを保存して印刷します。
	ヘルプ	さまざまな診断機能の操作手順またはヒントを提供します。
	保存	<p>タップしてサブメニューを開きます。サブメニューには、表示されているデータを保存するための3つのオプションがあります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 【このページを保存】をタップして、スクリーンショット画像を撮ります ● 【すべてのデータを保存】をタップして PDF ファイル を保存します (主に 1 ページ以上のデータを保存する ために使用されます) ● 【保存を開始】をタップして、ビデオクリップを記録 します (ライブデータまたは特別なグラフデータの記 録にのみ使用可能) <p>保存されたすべてのデータは、後で確認できるようにデー ターマネージャーアプリケーションに保存されます。</p>
	データレコード	<p>テスト車両の通信データと ECU 情報を記録します。保存されたデータは報告され、インターネット経由でテクニカル センターに送信されます。サポートアプリケーションに移動して、処理の進行状況を フォローアップします。</p>

➤ 診断画面でデータを印刷する方法

1. MaxiSysプログラムメニューの[診断]アプリケーションボタンをクリックします。
2. 「診断」画面の上部にあるツールバーの[印刷]アイコンをクリックすると (このアイコンは診断手順全体で常に使用可能です)、画面にドロップダウンメニューが表示されます。
 - **現在のページを印刷**—現在の画面のスクリーンショットを印刷します。
 - **印刷**—すべてのデータのPDFドキュメントを印刷します。

3. システムは一時ファイルを生成し、それを印刷のためにコンピューターに送信します。
 4. ファイルが正常に送信されると、確認メッセージが画面に表示されます。
-

🔗 ヒント

印刷する前に、タブレットが Wi-Fi または LAN を介してコンピュータネットワークに接続されていることを確認してください。

➤ 診断でデータロギングレポートを送信するには

1. MaxiSysプログラムメニューの[診断]アプリケーションボタンをクリックします。「診断」画面の上部にあるツールバーの[データロギング]アイコンをクリックします（このボタンは、診断手順全体で常に使用できます）。
2. 例外タイプを選択し、ポップアップフォームを編集します。
3. [OK]ボタンをクリックして、インターネット経由でデータロギングレポートを送信してください。ファイルが正常に送信されると、確認メッセージが画面に表示されます。

4.5.2 現在のディレクトリパス

ディレクトリパスには、現在のページにアクセスするためのすべてのディレクトリ名が表示されます。

4.5.3 ステータス情報バー

メイン画面の上部にあるステータスバーには、次のアイコンが含まれています。

- **ネットワーク接続ステータスアイコン**-タブレットのネットワーク接続のステータスを表示します。
- **VCIアイコン** -タブレット診断デバイスとVCIデバイス間の通信ステータスを表示します。
- **バッテリーアイコン** -車両のバッテリーステータスを表示します。

4.5.4 メインセクション

メインセクションは、車両識別の選択、メインメニュー、テストデータ、メッセージ、指示、およびその他の診断情報を表示する操作の段階によって異なります。

- 列1-システム番号を表示します。
- 列2-スキャンされたシステムを表示します。
- 列3-スキャン結果を表示します。
- ◇ **-! -:** スキャンしたシステムがコード読み取り機能をサポートしていないか、テストと制御システム間の通信エラーがあることを示します。
- ◇ **-? -:** 車両制御システムが検出されたが、テストがアクセスできないことを示します。
- ◇ **エラー|#:** 故障コードが検出されていることを示します。「#」は、検出されたエラーの数を示します。
- ◇ **パス|エラーなし:** システムがスキャンされ、エラーが検出されなかったことを示します。

- ◇ **スキャンされていません:** システムがスキャンされていないことを示します。
- ◇ **応答なし:** システムが応答を受信していないことを示します。
- 列4-特定のシステムでさらに診断またはテストを実行するには、そのシステムの右側にある矢印ボタンをクリックします。機能メニュー画面が表示されます。

4.5.5 機能ボタン

次の表に、各機能ボタンの操作を簡単に示します。

表43-機能ボタンバーの説明

名称	説明する
レポート	診断データをレポートフォームに表示します。
オートスキャン	スキャンを開始します。
クイック消去	スキャン後、すべてのエラー情報をクリアします。
システムに入る	ECU システムに入ります。
一時停止	スキャンプロセスを一時停止します。
継続	スキャンプロセスを続行します。
戻る	前のページに戻ります。

4.6 コントロールユニット

このオプションを使用すると、一連の選択肢を通じて、テストに必要な制御システムを手動で見つけることができます。メニュー方式の手順に従い、毎回適切な選択を行ってください。プログラムは、いくつかの選択を行った後、診断機能メニューに案内します。



図 4-7 機能メニュー画面のサンプル

🔍 ヒント

診断プロセス全体を通して、画面上部の診断ツールバーを使用して、表示されたデータの印刷と保存、ヘルプ情報の表示、データ収集の実行など、いつでも診断情報に対してさまざまな操作を実行できます。

利用できる機能は車両によって異なる場合があります。機能メニューには次のものが含まれます：

- **ECU情報**- 詳細なECU情報を表示します。情報画面を表示する場合に選択します
- **故障コード**- ECUモジュールから取得したDTC情報を読み取って表示します。
- **ライブデータ**- 車両ECUのデータフローとパラメータを読み取って表示します。
- **アクティブテスト**- 特定のサブシステムおよびコンポーネントテストを提供します。この選択は、アクチュエータ、アクチュエータテスト、または機能テストとして表示される場合があります。利用可能なテストは車両によって異なります。
- **特殊機能**- カスタム構成のコンポーネント適応またはバリエーションコーディング機能を提供し、修理後に特定のコンポーネントの適応値を入力できるようにします。テスト車両によっては、この選択がコントロールユニットの適応、バリエーションコーディング、構成などとして表示される場合があります。

4.7 ECU情報

この機能は、コントロールユニットのタイプやバージョン番号など、テストされたコントロールユニットの特定の情報を読み取って表示します。

4.8 故障コード

この機能は、車両制御システムからDTCを取得して表示します。[コードの読み取り]画面は、テストする車両ごとに異なります。一部の車両では、フリーズフレームデータを取得して表示することもできます。サンプルの[コードの読み取り]画面は次のように表示されます：

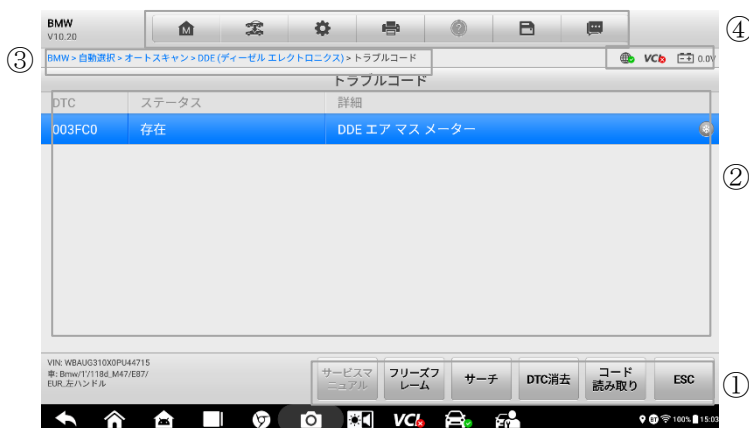


図 4-8 コード読み取り画面のサンプル

①診断ツールバー

②ページナビゲーションパス

③ステータス情報バー

④メインセクション

- 列1-車両から取得したDTCを表示します。
- 2列目- 取得したDTCのステータスを表示します。
- 列3-取得したDTCの詳細な説明を表示します。
- 列4-クリックして、故障コードの情報を表示します。

⑤機能ボタン

- **知能診断** — タップして知能診断画面に入り、関連する修理ケースとヘルプ情報を確認します。

- **フレームフリーズ** -表示可能なフリーズフレームデータがある場合、アイコンが表示されます。アイコンをクリックすると、データインターフェイスが表示されます。
- **コードの消去** — タップして障害コードをクリアします。
- **コード読み取り**-車両制御システムから DTC を取得して表示します。[コードの読み取り]画面は、テストする車両ごとに異なります。
- **サーチ** — 選択された故障コードをインターネットで検索できます。
- **戻る** — クリックして前のページに戻るか、機能を終了します。

4.9 故障コードの消去

車両から取得したコードを読み取り、特定の修理を行った後、この機能を使用して車両からコードを消去できます。この機能を実行する前に、エンジンがオフの状態でも車両のイグニッションキーがオン (RUN) 位置にあることを確認してください。

➤ コードを消去するには

1. 機能メニューの[コードの消去]をタップします。
2. この機能を適用すると、データが失われたことを通知する警告メッセージが表示されます。
 - ◆ [はい]をタップして続行します。操作が正常に完了すると、確認画面が表示されます。
 - ◆ [いいえ]をタップして終了します。
3. 確認画面で【戻る】をタップして、コードの消去を終了します。
4. コードの読み取り機能を再度チェックして、操作が成功したことを確認します。

4.10 ライブデータ

この機能を選択すると、選択したモジュールのデータリストが画面に表示されます。制御モジュールで使用可能なデータは、車両ごとに異なります。パラメータは、ECMによって送信される順序で表示されるため、車両間のばらつきが予想されます。

ジェスチャスクロールを使用すると、データリスト内をすばやく移動できます。データが複数の画面に表示される場合は、画面をタッチして指を上下にドラッグして、表示されているパラメータの位置を変更します。以下の図は、典型的なライブデータ画面を示しています：



図 4-9 コード読み取り画面のサンプル

①メインセクション

②下部ツールバー

4.10.1 メインセクション

- 名前列：この列には、パラメータ名が表示されます。

◇チェックボックス —パラメータ名の左側にあるチェックボックスをタップして、アイテムを選択します。もう一度チェックボックスをタップして、アイテムの選択を解除します。

◇ドロップダウンボタン—パラメータ名の右側にあるドロップダウン ボタンをタップして、データを表示するオプションのモードを提供するサブメニューを開きます。

- 値列—パラメータ項目の値を表示します。
- 単位列—パラメータ値の単位を表示します。

ディスプレイモード

メインインターフェースでデータを表示する際に選択できる表示モードは 4 つあり、さまざまなパラメータタイプに応じて表示に最適なモードを選択できます。パラメ

一タ名の右側にあるドロップダウンボタンをタップしてサブメニューを開きます。合計7つのボタンが表示されます。左側の4つのボタンは、さまざまなデータ表示モードを表し、情報ボタンは追加情報が表示されたときにアクティブになります。表示データの単位を切り替えるためのユニット変更ボタンがあります。またトリガーボタンをタップして、「トリガー設定」ウィンドウを開きます。

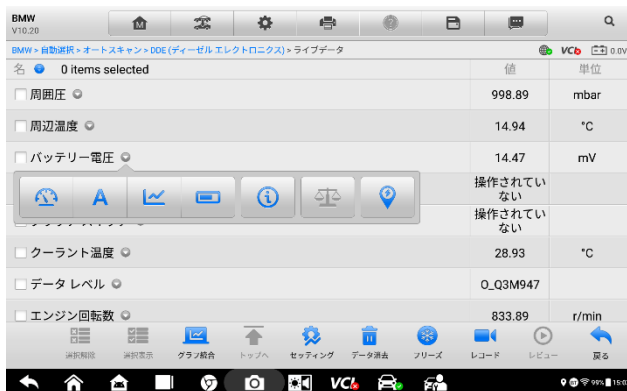


図 4-10 表示モード画面のサンプル

各パラメータ項目は、選択したモードを個別に表示します。

- ◇ **アナログゲージモード**—各パラメータをゲージチャートに表示します
- ◇ **テキストモード** -各パラメータをテキストリストとして表示するデフォルトモードです。

🔍 ヒント

ON、OFF、ACTIVE、ABORT などのスイッチ読み取り値などのステータスパラメータは、テキストモードでのみ表示できます。センサー読み取り値などの値パラメータは、テキストモードとグラフモードの両方で表示できます。

- ◇ **波形モード**-波形グラフにパラメータを表示します

このモードでは、パラメータ項目の右側に 5つのコントロールボタンが表示され、表示ステータスを操作できます。

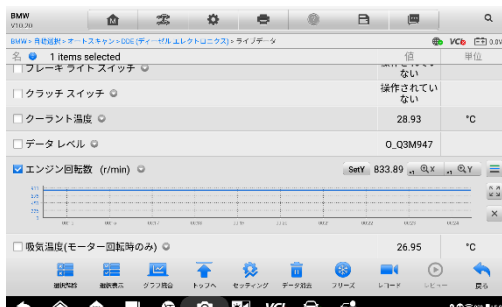


図 4-11 波形グラフにパラメータを表示します

- **設定ボタン (SetY)** -Y軸の最小値と最大値を設定します。
 - **スケールボタン** -スケール値を変更します。右側の波形グラフの上に表示される 2つのスケールボタンがあり、グラフの X 軸と Y 軸のスケール値を変更するために使用できます。X 軸には 4つのスケールがあります: x 1、x2、x4、および x8。Y 軸には、x1、x2、および x4 の 3つのスケールがあります。
 - **編集ボタン** -波形の色と線の太さを編集します。
 - **ズームインボタン** -1回タップすると、選択したデータグラフが全画面で表示 されます。
 - **終了ボタン** -タップして波形グラフモードを終了します。
- ◇ **全画面表示** -このオプションは、波形グラフモードでのみ使用可能であり、「カーブフュージョン」モードでのデータ比較によく使用されます。フルスクリーンディスプレイインターフェイスの右上隅には4つのボタンがあります。
- **ズームボタン** -グラフの下のスケール値を変更します。 X 軸には x1、x2、x4、x8 の 4つのスケールがあります。Y 軸には x1、x2、x3 および x4 の 3つのスケールがありま。
 - **編集ボタン** -タップして編集ウィンドウを開きます。編集ウィンドウでは、 選択したパラメータ項目に表示される波形の色と線の太さを設定できます。
 - **ズームアウトボタン** --タップして全画面表示を終了します。
 - **終了ボタン** -タップして波形グラフモードを終了します。
- ◇ **デジタルゲージモード** -パラメータをデジタル機器グラフィックの形式で表示し ます。
- ◇ **トリガー設定** -トリガー設定画面では、通常の範囲（最大値と最小値）を設定で きます。この範囲を超えると、トリガーがトリガーされ、デバイスはデータス トリームを自動的に記録して保存します。保存されたデータストリームは、画 面の下部にある「再生」機能で表示できます。

パラメータ名の右側にあるドロップダウンボタンをクリックしてサブメニューックする、トリガー設定ウィンドウが画面に表示されます。

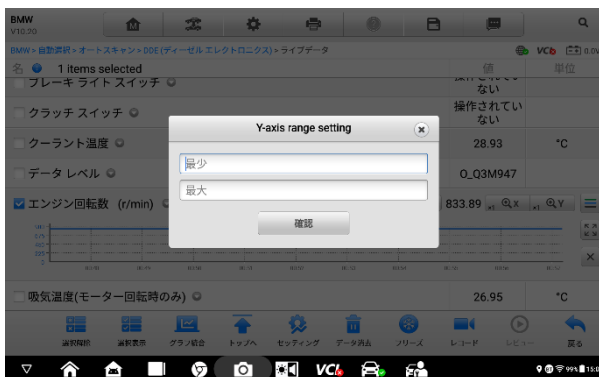


図 4-12 トリガー設定画面のサンプル

「トリガー設定」画面には、2つのボタンと2つの入力ボックスがあります。

- **トリガーオン**-トリガー機能をオンまたはオフにします。デフォルトの状態は「オン」です。
- **ブザーアラーム** -アラーム機能をオンまたはオフにします。機能を有効にした後、データの読み取り値が事前設定された最小値または最大値を超えると、アラームはリマインダーとして「ビープ音」を鳴らし、初めてトリガーされたときのみ鳴ります。
- **最小値** -入力ボックスをクリックして仮想キーボードを開き、下限値を設定します。
- **最大値** -入力ボックスをクリックして仮想キーボードを開き、上限値を設定します。

➤ トリガーの設定方法

1. パラメータ名の右側にあるドロップダウンボタンをクリックして、サブメニューを開きます。
2. サブメニュー右側の[トリガー]ボタンをクリックすると、トリガー設定ウィンドウが開きます。
3. 右側の[最小]ボタンをクリックして最小値を入力してください。
4. 右側の[最大値]ボタンをクリックして最大値を入力してください。
5. [OK]をクリックして設定を保存し、[データストリームの読み取り]画面に戻るか、[キャンセル]をクリックして設定を保存せずに終了します。

トリガー設定が成功すると、パラメーター名の前にトリガーマークが表示されます。トリガーされていない場合、マークは灰色になります。トリガーされると、トリガーマークはオレンジ色に変わります。さらに、各データグラフに2本の水平線が表示

され、アラームトリガーの制限を示します。限界線は、パラメーター波形 と区別するために異なる色で表示されます。

4.10.2 下部ツールバー

「データストリームの読み取り」画面の各ファンクションボタンの操作手順は次のとおりです。

- **すべてキャンセル**—このボタンをクリックして、選択したすべてのパラメーター項目をキャンセルします。最大50個のパラメーター項目をチェックできます。
- **選択を表示/すべて表示** -このボタンをクリックして、これら2つのオプションを切り替えます。1つは選択したパラメーター項目を表示し、もう1つはすべてのパラメーター項目を表示します。
- **グラフのマージ** -このボタンをクリックして、選択したデータグラフをマージします（「波形グラフモード」の場合のみ）。この関数は、ユーザーがさまざまなパラメーター値を比較するのに便利です。

🔍 ヒント

このモードは、デジタルで表現できる 2~5 個のパラメーターのグラフマージをサポートします。非デジタルパラメーターはサポートされません。

➤ 選択したデータグラフをマージするには

1. 目的のパラメーター項目を選択します。
2. 選択したデータグラフをマージするには。
 - このモードは、デジタルで表現できるパラメーターのみをサポートします。非デジタルパラメーターが選択されている場合、選択したパラメーターがこのモードではサポートされていないこと、および 2~5 個のデジタルパラメーターを選択することをユーザーに通知するメッセージが表示されます。ボタンをクリックして前の画面に戻り、サポートされているパラメーターを選択します。
 - このモードでサポートされていないパラメーターが選択されている 4 9 場合、サポートされているパラメーターのみを選択するようにユーザーに通知するメッセージが表示されます。5つ以上のパラメーターが選択されている場合もメッセージが表示されます。サポートされているパラメーターを入力し、[OK]ボタンをタップしてマージします。
3. ライブデータ画面の下部にある[マージのキャンセル]ボタンをタップして、マージをキャンセルします。
 - **トップへ**—選択したデータ項目をリストのトップに移動します。
 - **設定** -トリガー後の録音時間を設定します。

➤ ライブデータレコードの期間を設定するには

1. ライブデータ画面下部の設定ボタンをタップします。
 2. 「トリガー後の記録時間」の右側にある>ボタンをクリックして設定ウィンドウを開き、時間を選択します。
 3. [OK]をタップして設定を保存し、[ライブデータ設定]画面に戻るか、右上隅の [X]ボタンをタップして保存せずに終了します。
 4. [ライブデータ設定]画面の右上隅にある[完了]をタップして設定を確認して保存し、[ライブデータ]画面に戻るか、[キャンセル]をタップして保存せずに終了します。
- **データのクリア**-このボタンをタップして、キャッシュされたすべてのライブ データをクリアします。
 - **フリーズ**-取得したデータをフリーズモードで表示します。
 - **前のフレーム** -クリックすると、前のフレームのフリーズデータが表示されます。
 - **次のフレーム** -クリックして、フリーズしたデータの次のフレームを表示します。
 - **再生/一時停止** - [再生/一時停止]をクリックして、データをフリーズします。
 - **再開** -クリックしてフリーズデータモードを終了し、通常のデータ表示モードに戻します。
 - **記録** -選択したデータ項目のライブデータの記録を開始します。ライブデータ 画面下部の録音ボタンをタップすると、録音するパラメーターを選択するように促すメッセージが表示されます。[取得]ボタンをタップして確認します。下にスクロールして、記録するデータを選択します。[記録]ボタンをタップして、記録を開始します。[再開]ボタンをタップして記録を停止します。記 録されたライブデータは、[ライブデータ]画面の下部にある[レビュー]セク ションで表示できます。記録されたデータは、Data Manager アプリケーションで確認することもできます。
 - **再開**-このボタンをタップすると、データの記録が停止し、通常のデータ表示に戻ります。
 - **フラグ**-このボタンは、記録機能が適用されたときに表示されます。この ボタンをタップして、データを記録するときに関心のあるポイントにメモを設定します。レビューまたはデータマネージャーでの再生中にメモを追加できます。プリセットフラグを選択してポップアップウィンドウを開き、ノートを入力するための仮想キーボードを表示します。
 - **レビュー**-記録されたデータをレビューします。[レビュー]ボタンをタップして記録リストを表示し、レビューする項目を 1つ選択します。



ヒント

ライブデータ画面で確認できるのは、現在の操作中に記録されたデータのみです。過去に記録されたすべてのデータは、Data Manager アプリケーションの「データの確認」で確認できます。

- **前のフレーム** -クリックして前のフレームデータを表示します。
 - **次のフレーム** -クリックして、データの次のフレームを表示します。
 - **再生/一時停止** -タップしてデータを再生/一時停止します。
 - **オプションを表示** -選択したパラメータ項目を表示します。
 - **カーブフュージョン** -選択したデータグラフをマージします。
 - **戻る** -再生機能を終了し、「データストリームの読み取り」インターフェイスに戻ります
- **戻る**—前の画面に戻るか、選択した機能を終了します。

4.11 アクティブテスト

アクティブテスト機能は、車両固有のサブシステムおよびコンポーネントテスト にアクセスするために使用されます。使用可能なテストは車両によって異なります。

アクティブテスト中、タブレットは ECU にコマンドを送信してアクチュエーターをアクティブにします。このテストでは、ECU データを読み取るか、アクチュエーターの動作を監視することにより、システムまたは部品の整合性を判断します。このようなテストには、ソレノイド、リレーの切り替えが含まれる場合があります。または2つの動作状態間の切り替えを行います。

アクティブテストを選択すると、テストオプションのメニューが表示されます。使用可能なテストは車両によって異なります。メニューオプションからテストを選択します。画面に表示される指示に従ってテストを完了します。手順は車両によって異なります。



図 4-13 アクティブテスト画面のサンプル

アクティブテスト画面の右下隅にある機能ボタンは、テスト信号を操作します。操作手順は、テスト画面のメインセクションに表示されます。画面の指示に従い、適切な選択を行ってテストを完了します。終了したら、【戻る】をタップしてテストを終了します。

4.12 特殊機能

これらの機能は、修理または交換が完了した後の特定のコンポーネントの再調整 または構成を含む、さまざまなコンポーネントの適応を実行します。

アダプティブオペレーションのメイン画面には、オペレーション情報と車両ステータス情報のリストが表示されます。これには、主に次の4つの部分が含まれます。

- 上部の最初の部分：実行された操作を説明し、右側には「開いていない」や「閉じている」などの実行ステータスが表示されます。

- パートII: 選択したアクションを実行するための前提条件または要件を表示します。
- パート3: 学習中の車両制御モジュールの現在の状態を表示します。これはパート2で提案された前提条件と比較できます。制御モジュールの現在の状態が前提条件の制限を超える場合は、要件を満たすように車両の状態を調整する必要があります。
- 最後の部分: 画面の右下隅にある機能ボタンの使用方法について説明します。

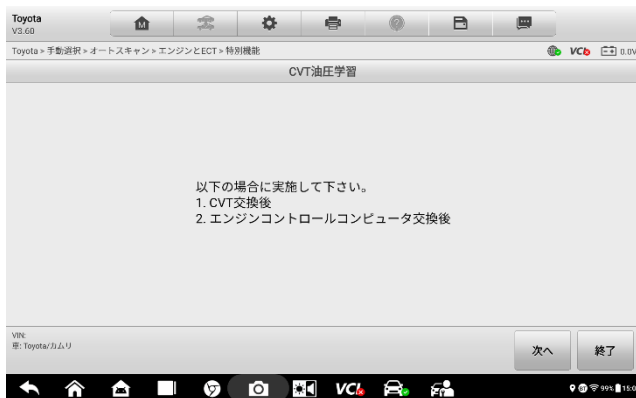


図4-14 “特殊機能画面のサンプル

画面上の情報を読み、対応する車両の状態を確認し、車両が適応の準備ができていることを確認したら、画面の指示に従って正しいアクションを実行します。操作が完了すると、「完了」、「完了」、「成功」などの実行ステータスメッセージが画面に表示されます。

[戻る]ボタンをクリックして、この機能を終了します。

4.13 一般的なOBDII操作

OBDII / EOBD車両診断オプションを使用すると、トラブルコードをすばやくチェックし、誤動作インジケータライトが点灯する原因となった誤動作の原因を特定し、排出ガス認証テストの前にモニターのステータスをチェックし、修理が成功したことを確認し、その他の排出ガスを実行できます-関連するメンテナンス。 OBDIIダイレクトアクセスオプションは、診断データベースに含まれていないOBDII / EOBD準拠の車両を検出するためにも使用できます。画面上部の診断ツールバーボタンは、特定の車両診断に使用できます。

4.13.1 一般的な操作

➤ OBDII/EOBD診断にアクセスする方法

1. MaxiSysプログラムメニューの[診断]アプリケーションボタンをクリックし

ます。

2. [EOBD]ボタンをクリックしてください。車両との通信を確立するには、次の2つの方法があります。
 - i. **自動スキャン** --車両が使用しているプロトコルを判別するために、各プロトコルを使用して通信を確立するために選択します。
 - ii. **プロトコル** --選択すると、さまざまなプロトコルのサブメニューが開きます。通信プロトコルは、ECM と診断ツール間のデータ通信の標準化された方法です。グローバル OBD は、いくつかの異なる通信プロトコルを使用する場合があります。
3. [プロトコル]オプションが選択されている場合は、特定のプロトコルを 58 選択します。OBDII 診断メニューが表示されるのを待ちます。

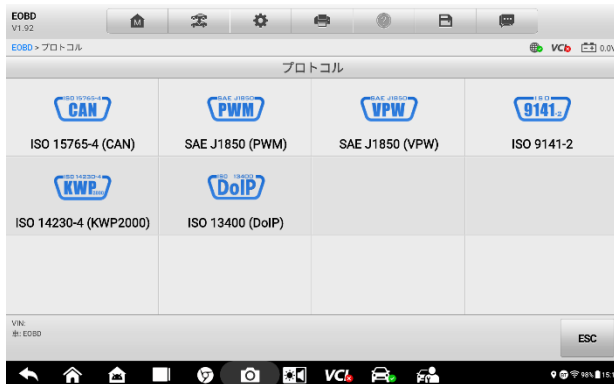


図416 - OBDII 診断メニューのサンプル

4. 機能項目を選択して続行します。

🔗 ヒント

一部の機能は、特定のモデルでのみサポートされています。

4.13.2 機能の説明

このセクションでは、各診断オプションのさまざまな機能について説明します。

4.13.2.1 DTC と FFD

この機能を選択すると、画面に保存されているコードと保留中のコードのリスト 59 が表示されます。特定の DTC のフリーズフレームデータを表示できる場合は、DTC アイテムの右側にスノーフレイクボタンが表示されます。コードの消去機能を使用できます。画面下部の機能ボタンをタップして適用します。

5 バッテリーテスト

MaxiBAS バッテリーおよび電気システム分析ツールとしてのBT506 (以下BT 506と呼びます) は、適応コンダクタンスバッテリー分析方法を使用して、バッテリーのコールドスタート機能と予備容量をより正確にチェックし、バッテリーの状態を判断するのに役立ちます。「バッテリーテスト」アプリケーションはBT506と連携して、バッテリー、スターター、ジェネレーターのテストを実行し、テスト結果を表示します。

5.1 MaxiBAS BT506バッテリー診断機器

5.1.1 機能の説明

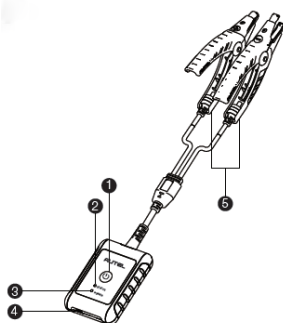


図 5-1 MaxiBAS BT506サンプル

- ① 電源スイッチ
- ② スタータインジケータ
- ③ 電源インジケータ
- ④ USBインターフェース
- ⑤ バッテリークランプ

水面 111-インジケータライトの説明

インジケータライト	色	説明する
ステータスインジケータ	緑	<ul style="list-style-type: none"> ● デバイスがUSBケーブルを介して診断パネルに正常に接続されると、緑色のライトが常に点灯します。 ● デバイスがUSBケーブルを介して通信すると、緑色のライトが点滅します。
	青	<ul style="list-style-type: none"> ● デバイスがBluetooth経由で診断タブレットに正常に接続されると、青色のライトが常に点灯します。 ● デバイスがBluetooth経由で通信しているときは、青いライトが点滅します。
	赤	バッテリークランプが逆になっています（正と負のクランプが逆になっています）。
電源インジケータ	緑	<ul style="list-style-type: none"> ● デバイスは通常オンになっており、バッテリーは完全に充電されており、緑色のライトが常に点灯しています。 ● デバイスの充電中は、緑色のライトが点滅します。
	赤	電池残量が少なくなると、赤いライトが点滅しますので、時間内に充電してください。

5.1.2 電源

BT 506バッテリーテスターは、次の電流のいずれかで電力を供給できます。

- 内蔵バッテリーパック
- AC / DC電源

❶ 重要

バッテリー診断装置の充電周囲温度は0～45 °Cに制御してください。

内蔵バッテリーパック

BT 506バッテリーテスターは、内蔵の充電式バッテリーで駆動できます。

AC/DC電源

BT 506バッテリーテスターは、AC/DC電源アダプターを使用して充電できます。AC / DC電源は、内蔵バッテリーパックを充電することもできます。

5.1.3 技術仕様

水面 112-技術仕様

事業	説明する
接続方法	<ul style="list-style-type: none">● タイプ-CUSB _● Bluetooth 4.2
入力電圧	5V DC
供給電流	150mA @ 12V DC
内蔵バッテリー	3.7 V /800mAhリチウム電池
測定可能なバッテリー容量	100~2000 A
測定可能な電圧範囲	6~36 V
作動温度	から50°C
保管温度	-20°C~60°C
寸法 (LxWxH)	107mm x 75mm x 26mm (バッテリークランプなし)
重さ	320グラム

5.2 診断の準備

5.2.1 バッテリーを確認してください

BT 506バッテリースキャナーを使用する前に、次の条件に注意してください。

- バッテリーにひびが入っているか、曲がっている、または漏れているかどうか。（もしあれば、時間内にバッテリーを交換してください。）
- 配線が腐食している、緩んでいる、または損傷している。（その場合は、必要に応じて配線を修理または交換してください。）
- バッテリーが腐食していないか、ケースの上部にほこりや酸が付着していないか。（可能な場合は、重曹（重曹）水に浸したワイヤーブラシを使用して、ハウジングと極性コネクタを清掃します。）

5.2.2 コミュニケーションを確立する

➤ **バッテリー診断機器とMS906Pro /MS906Pro-TSタブレット診断機器間の通信を確立する方法**

1. BT506バッテリーテスターとMS906Pro/MS906Pro-TSタブレット診断装置の電源を入れます。
2. MaxiSysプログラムメニューの[**VCI管理**]アプリケーションをクリックします。
3. 左側のメニューバーの[**BASBluetooth**]をクリックします。
4. インターフェイスの右上にある[**スキャン**]ボタンをクリックします。
5. 使用するVCIのタイプによっては、デバイス名がMaxi-plusシリアル番号として表示される場合があります。ペアリングする対象デバイスを選択してください。
6. ペアリングが成功すると、デバイス名の右側の接続ステータスが「**接続済み**」と表示されます。
7. 接続が成功すると、BT506バッテリーテスターの接続インジケータが青色に点滅します。

5.2.3 バッテリーを接続します

➤ **バッテリーの接続方法**

1. [**電源**]ボタンを長押しして、BT506バッテリー診断装置を起動します。

2. 赤いクランプはプラスのバッテリー (+) に接続され、黒いクランプはマイナスのバッテリー (-) に接続されています。黒いバッテリークランプヘッドの

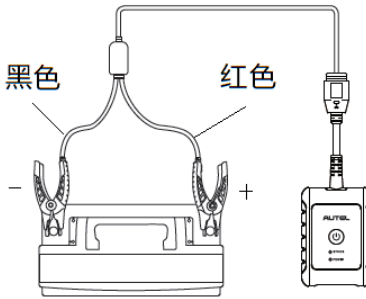


图 5-2 电池连接示意图

赤外線センサーは、バッテリーの温度を検出できます。テスト結果は、バッテリーテストの「レポート」インターフェースに表示されます。

5.3 車内テスト

「車内テスト」アプリケーションは、車両に取り付けられたバッテリーをテストするために使用されます。検出された項目は、「バッテリー」、「スターター」、「ジェネレーター」で、それぞれバッテリー、スターター、ジェネレーターの状態を確認できます。

❗ 重要

診断機能を使用する前に、「アップデート」インターフェースで必要な車両シリーズをダウンロードしてください。

❗ 知らせ

完全な車載テストには、「バッテリー」を押す必要があります> 「スターター」> 「ジェネレーター」のシーケンスが順番に実行されます。

5.3.1 車載バッテリーの検出

➤ 車載バッテリーテストの実施方法

1. MaxiSysメインメニューの[BatteryTest]アプリケーションをクリックして、[BatteryTest]インターフェイスに入ります。



図 5-3 "バッテリーテスト"サンプル

2. [車内テスト]ボタンをクリックしてください。
3. (オプション) 「OBd接続」インターフェースのプロンプトに従ってVCIと車両間の接続を完了するか、[次へ]を直接クリックします。

🔗 ヒント

「OBd接続」を使用すると、バッテリーの種類と場所を自動的に取得できます。これは、最適な操作に推奨されます。

4. 車両情報を確認してください。VCIが車両との通信を正常に確立すると、車両情報が「車両情報」インターフェースに表示されます。[バッテリーの位置] ボタンが左下に表示されます。

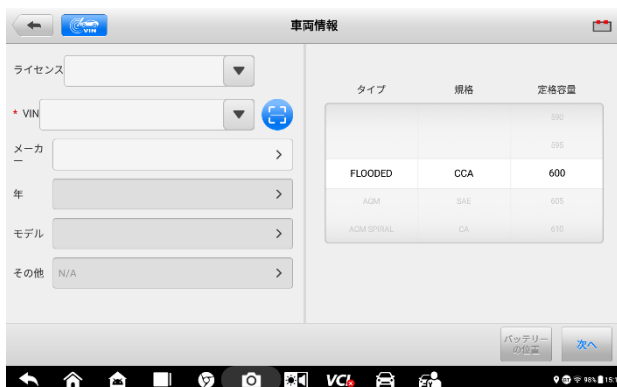


図 5-4 “車両情報” サンプル

表113 - 「車両情報」インターフェースの上部にあるボタンの説明

アイコン	名前	説明する
	戻る	前のインターフェースに戻ります。
	VIN	このボタンをクリックすると、ドロップダウンメニューリストが開きます。 <ul style="list-style-type: none"> ● [自動検出]をクリックして、VINコードの自動検出を実行します。 ● [手動入力]をクリックして、VINコードを手動で入力します。 ● [ナンバープレート/VINコードのスキャン]をクリックしてナンバープレートまたはVINコードをスキャンし、車両情報を特定します。
	バッテリー接続	バッテリーの接続状態を表示します。アイコンの数字は、テストバッテリーのリアルタイム電圧データを表しています。

5. [次へ]ボタンをクリックして、「バッテリー」インターフェースに入ります。インターフェイスのプロンプトに従って、バッテリーテストの前に関連する操作を完了し、[テストの開始]ボタンをクリックします。



図 5-6 テスト前操作

6. バッテリーテストが完了するのを待った後、テスト結果を確認してください。



図 5-5 バッテリーテスト結果

車載バッテリー検出の可能な結果:

- 良いバッテリー
- 要充電
- 注意
- 充電後にもう一度テストしてください
- 要交換

5.3.2 スターター検出

➤ スターターテストの実行方法

1. 「バッテリーテスト結果」インターフェースの右下隅にある[次へ]ボタンをクリックします。インターフェースのプロンプトに従って、スターター検出の前に関連する操作を完了します。次に、[テスト開始]ボタンをクリックします。
2. スターターテストが完了するのを待った後、テスト結果を確認します。

スターター検出の可能な結果:

- スターターは正常です
- 電流が低すぎる
- 電圧が低すぎる
- スタートアップが検出されません

5.3.3 オルタネーターの検出

➤ オルタネーターテストの方法

1. 「スターターテスト結果」インターフェースの右下隅にある[次へ]ボタンをクリックします。インターフェースのプロンプトに従って、ジェネレータの検出に関連する操作を完了します。
2. 発電機試験が終了したら、試験結果を確認してください。

オルタネーター検出の可能な結果:

- オルタネーターは正常です
- 出力が低すぎる
- 出力が高すぎる
- リップルが多すぎる
- 出力なし

5.4 車外テスト

「車外テスト」アプリケーションは、車両に接続されていない車両バッテリーをテストするために使用できます。このアプリは、バッテリーの状態のテストのみを提供します。テスト可能なバッテリーの種類と規格は次のとおりです。

タイプ: FLOODED、AGM、AGM SPIRAL、EFB、GEL

規格: CCA、AE、CA、EN、IEC、DIN、JIS、MCA

5.4.1 オフボードバッテリー検出

➤ オフボードバッテリーテストの実行方法

1. MaxiSysメインメニューの[BatteryTest]アプリケーションをクリックして、**[Battery Test]インターフェイスに入ります。**
2. **[車外テスト]**ボタンをクリックしてください。
3. 電池情報を確認後、**[テスト開始]**をクリックします。



図 5-7 車外テストイメージ

4. バッテリーテストが完了するのを待った後、テスト結果を確認してください



図 5-8 テスト結果

オフボードバッテリー検出の考えられる結果:

- 良いバッテリー
- 要充電
- 注意
- 充電後にもう一度テストしてください
- 要交換

6 データマネージャー

データマネージャーアプリケーションを使用すると、保存したファイルを保存、印刷、および確認し、ワークショップ情報、顧客情報レコードを管理し、テスト車両の履歴レコードを保持できます。







データマネージャーアプリケーションを選択すると、ファイルシステムメニューが開きます。8つの主要な機能を使用できます。






図121 - 「データ管理」インターフェース

次の表で、データ管理アプリケーションの機能アイコンについて説明します。

表121 - 「データ管理」インターフェースアイコンの説明

ボタン	名前	説明
	車両履歴	クリックして、テストされた車両のデータを表示します。
	ショップ情報	クリックして修理ステーションの情報を表示します
	顧客管理	[新しい顧客情報の作成]をクリックします。
	画像	スクリーンショットを表示するにはクリックしてください。
	レポート	クリックしてレポートのリストを表示します。
	PDF	クリックして診断レポートを表示します。

ボタン	名前	説明
	データ再生	クリックして記録データを表示します。
	APP	クリックして、対応するモデルのアプリをアンインストールします。
	データレコード	クリックして、Aotongサポートサービスとの通信を表示し、車両のECU情報をテストします 保存されたデータは、レポートを生成し、インターネット経由でテクノロジーに送信するために使用できます。

6.1 車両履歴

この機能は、車両情報や以前の診断セッションから取得した DTC など、テスト車両の履歴の記録を保存できます。テスト情報は要約され、読みやすい表リストに表示されます。車両履歴は、以前にテストされた車両への直接アクセスも提供し、自動または手動の車両選択を実行することなく、診断セッションを直接再開できるようにします。



図 6-2 車両履歴画面のサンプル

- ① ツールバー—ナビゲーションおよびアプリケーションコントロール。
- ② メインインターフェース—すべての車両記録を表示します。

➤ 記録された車両の診断セッションをアクティブにする方法

1. MaxiSys プログラムメニュープログラムメニューの[データマネージャー]をタップします。

2. [車両履歴]を選択して画面を開きます。[診断]または[サービス]をタップして、診断テストレコードまたはサービステストレコードを選択します。
3. 車両記録項目の下部にある[診断]アイコンをクリックします。
4. 車両の診断画面が表示され、新しい診断セッションがアクティブになります。車両の診断操作の詳細な手順については、診断を参照してください。
5. 車両のサムネイルを選択して記録を選択します。履歴テストの記録シートが表示されます。テスト車両の記録された情報を確認し、右上隅の [診断] ボタンをタップして診断を続行します。

6.1.1 過去のテスト記録

テストされた車両の「履歴テスト」レコードテーブルは詳細なデータテーブルで 98 行、車両の年式、ブランド、モデルなどの車両の基本情報と、前回の診断セッションで取得された診断トラブルコードが含まれています。技術者は、他の関連するメンテナンス情報を自分で手動追加することもできます。

❗ 注意

MaxiSys タブレットは、以前にテストされた車両でテストセッションを再開するために、VCI への接続を確立する必要があります。



図123 - 履歴テストレコードシートのサンプル

➤ 履歴テストレコードを編集するには

1. MaxiSys プログラムメニューの[データマネージャー]をタップします。
2. 車両履歴を選択します。
3. メインセクションから特定の車両履歴レコードのサムネイルを選択します。履歴テストレコードが表示されます。
4. [編集]アイコンをクリックします。
5. 各項目をタップして、情報を入力したり、ファイルや画像を添付したりします。

❗ 注意

車両の VIN、ライセンス番号、および顧客アカウント情報はデフォルトで99関連付けられています。車両レコードは、この車両と顧客 ID を使用して自動的に関連付けられます。

6. **[顧客に追加]**をタップして、履歴テストレコードシートを既存の顧客アカウントに関連付けるか、新しい関連付けられたアカウントを追加してテスト車両レコードに関連付けます。
7. **[完了]**をタップして更新されたレコードを保存するか、**[キャンセル]**をタップして保存せずに終了します。

6.2 ワークショップ情報

メンテナンスステーション情報テーブルを使用して、メンテナンスステーション の名前、住所、電話番号、その他の情報など、メンテナンスステーションの詳細情報を編集、入力、および保存できます。メンテナンスステーション情報テーブルの内容は、車両診断レポートとラインパイプのテストファイルを印刷するときに、印刷されたドキュメントのヘッダーとして表示されます。



図124 - ワークショップ情報シートのサンプル

➤ ワークショップ情報シートを編集するには

1. MaxiSys プログラムメニューのデータマネージャアプリケーションをタップします。
2. ワークショップ情報を選択します。
3. 各フィールドをタップして、適切な情報を入力します。
4. [完了]をタップして更新されたワークショップ情報レコードを保存するか、[キャンセル]をタップして保存せずに終了します。

6.3 顧客管理

顧客機能を使用すると、顧客アカウントを作成および編集できます。これは、関連するテスト車両履歴レコードに関連付けられているすべての顧客情報アカウントを保存および整理するのに役立ちます。

➤ 顧客アカウントを作成するには

1. MaxiSys プログラムメニューのデータマネージャアプリケーションをタップします。
2. [顧客]を選択します。
3. [顧客の追加]ボタンをタップします。空の情報フォームが表示されたら、各フィールドをタップして適切な情報を入力します。

❗ 知らせ

記入が必要な項目は必須項目として表示されます。

4. サービス対象の車両が複数あるお客様もいます。アカウントにはいつでも新しい車両情報を追加できます。[新しい車両情報の追加]をタップしてから、車両情報を入力します。ボタンをタップしてキャンセルします。
5. [OK]をタップしてアカウントを保存するか、[キャンセル]をタップして保存せずに終了します。

➤ 顧客アカウントを編集するには

1. MaxiSys プログラムメニューの[データマネージャー]をタップします。
2. [顧客]を選択します。
3. 対応する名刺をタップして顧客アカウントを選択します。顧客情報レコードが表示されます。
4. 上部のツールバーの[編集]をタップして編集を開始します。
5. 入力フィールドをクリックして、情報を編集または変更します。
6. [完了]をタップして更新された情報を保存するか、[キャンセル]をタップして保存せずに終了します。

➤ 顧客アカウントを削除するには

1. MaxiSys プログラムメニューの[データマネージャー]をタップします。
2. [顧客]を選択します。
3. 対応する名刺をタップして顧客アカウントを選択します。顧客情報レコードが表示されます。
4. 上部のツールバーの[編集]をタップして編集を開始します。
5. 画面上部の[削除]ボタンをタップします。リマインダーメッセージが表示されます。
6. [OK]をタップしてコマンドを確認すると、アカウントが削除されます。[キャンセル]をタップしてリクエストをキャンセルします。

6.4 画像

画像セクションは、キャプチャされたすべてのスクリーンショットを含む PNG データベースです。

- ① ツールバーボタン-画像ファイルを編集、印刷、または削除するために使用されます。
- ② メインセクション-保存された画像を表示します。

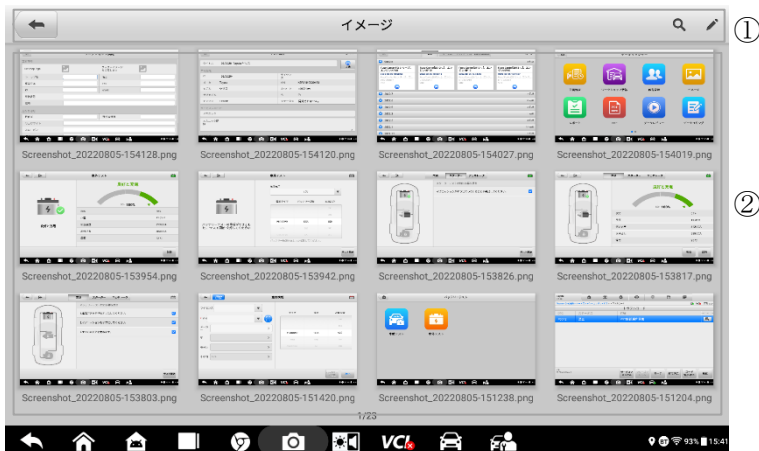









表122-データベースのツールバーボタン

ボタン	名前	説明
	戻る	前の画面に戻ります。
	探す	タップして検索ページに入ります。
	編集	タップして編集ツールバーを表示し、画像を選択、削除、印刷、または電子メールで送信します。
	キャンセル	タップして編集ツールバーを閉じるか、ファイル検索をキャンセルします。
	メール	タップして、選択した画像をメールで送信します。
	印刷	タップして、選択した画像を印刷します。
	削除	タップして選択した画像を削除します。

➤ 画像を編集/削除するには

1. MaxiSys プログラムメニューからデータマネージャを選択します。
2. [画像]を選択して、PNG データベースにアクセスします。
3. ウィンドウの右上隅にある[編集]をタップします。編集画面が表示されます
4. 編集したい画像をクリックします。
5. [削除]アイコンをタップして、選択した画像を削除するか、すべての画像を削除します。[印刷]アイコンをタップして、選択した画像を印刷します。[メール]アイコンをタップして、選択した画像をメールで送信します。

6.5 報告

「レポート」機能は、診断プロセスでデータと車両情報を相互に関連付け、レポートを作成して「レポートリスト」インターフェースに保存し、表示または共有することができます。

6.6 PDFファイル

PDF セクションには、保存されたデータのすべての PDF ファイルが保存および表示されます。PDF データベースに入った後、PDF ファイルを選択して保存された情報を表示します。

このセクションでは、ファイルの表示と編集に標準の Adobe Reader アプリケーションを使用します。詳細な手順については、関連する Adobe Reader のマニュアルを参照してください

6.7 レビューデータ

[データの確認]セクションでは、ライブデータストリームの記録されたデータフレームを再生できます。

[データの確認]メイン画面で、再生するレコードファイルを選択します。

6.8 アプリのアンインストール

利用可能な車のモデルの検索や削除など、MaxiSys診断システムにインストールされているアプリケーションを管理します。

6.9 データレコード

「データレコード」機能は、サポートプラットフォームを直接起動し、診断システムにフィードバックされた（保存された）すべてのデータレコードを表示できます。

7 設定

[設定]メニューにアクセスして、デフォルト設定を調整し、MaxiSys システムに関する情報を表示します。MaxiSys システム設定では、次のオプションを使用できます：

- 単位
- 言語
- プリンター設定
- レポート設定
- 自動更新
- ADAS設定
- 車両リスト
- システム設定
- 情報

このセクションでは、設定アプリケーションの操作について説明します。

7.1 単位

このオプションは、診断システムによって適用される測定単位を選択します。

➤ 単位の設定方法

1. MaxiSysプログラムメニューの**[設定]**アプリケーションをクリックします。
2. 左側のメニュー列の**[単位]**オプションをクリックします。
3. 目的の測定単位**[メートル法]**または**[インペリアル]**をクリックします。選択したユニットの右側に「✓」アイコンが表示されます。
4. 左上隅の**[ホーム]**ボタンをクリックしてMaxiSysプログラムメニューに戻るか、システム設定の他のオプションをクリックして設定します。

7.2 言語

このオプションは、MaxiSysシステムの表示言語を調整します。

➤ 言語の設定方法

1. MaxiSysプログラムメニューの**[設定]**アプリケーションをクリックします。
2. 左側のメニュー列の**[言語]**オプションをクリックします。
3. 目的の言語をクリックします。選択した言語の右側に「」アイコンが表示されます。
4. 左上隅の**[ホーム]**ボタンをクリックしてMaxiSysプログラムメニューに戻るか、システム設定の他のオプションをクリックして設定します。

7.3 プリンター設定

7.3.1 プリンター設定

このオプションを使用すると、タブレット診断デバイスのファイルをネットワークプリンターから印刷できます。

➤ プリンターの設定方法

1. MaxiSysプログラムメニューの**[設定]**アプリケーションをクリックします。
2. 左側のメニュー列にある**[印刷設定]**オプションをクリックします。
3. **[ネットワーク経由で印刷]**をクリックして印刷機能を有効にし、デバイスがWi-Fiまたはイーサネット経由でプリンターにファイルを送信できるようにします。
4. 左上隅の**[ホーム]**ボタンをクリックしてMaxiSysプログラムメニューに戻るか、システム設定の他のオプションをクリックして設定します。

7.4 レポート設定

このオプションは、修復レポートをクラウドにアップロードするために使用されます。[**ON / OFF**]をクリックすると、レポートアップロードクラウド機能が有効になります。この機能が有効になっている場合、ボタンは青色で表示されます。機能が無効になっている場合はグレー表示されます。

7.5 自動更新

このオプションは、「OS、MaxiSys、Vehicle」の更新のタイミングを構成するために使用されます。[**ON / OFF**]をクリックすると、自動更新が有効になります。自動更新が有効になっている場合、ボタンは青色です。自動更新が無効になっている場合はグレー表示されます。特定の時刻が設定されている場合、選択したソフトウェアは指定した時刻に自動的に更新されます。

7.6 ADAS設定

➤ 「MaxiSysADAS」機能を有効にする方法

1. MaxiSysが登録され、最新バージョンに更新されていることを確認してください。
2. MaxiSysプログラムメニューの[設定]アプリケーションをクリックします。
3. 左側のメニュー列にある[**ADAS設定**]オプションをクリックします。
4. ADASメインフレームのQRコードをスキャンしてデバイスをバインドします。QRコードが利用できない場合は、メインフレームのシリアル番号を手動で入力します。
5. ADASキャリブレーションカードに確認コードを入力します。
6. 登録が完了すると、システムはリセットされ、メインインターフェイスが表示されます。

7.7 車両リスト

このオプションは、車のロゴの並べ替えを構成するために使用されます。「使用頻度で並べ替え」または「アルファベット順で並べ替え」を選択すると、デバイスの使用に便利な使用設定に従ってロゴを並べ替えることができます。

7.8 システム設定

このオプションは、バックグラウンドのシステム設定インターフェイスに直接ジャンプできます。このインターフェイスでは、無線および有線ネットワーク設定、さまざまなデバイス設定（サウンドやディスプレイなど）、システムセキュリティ設定などのさまざまなシステム設定を調整したり、MaxiSysシステムに関する関連情報を確認したりできます。

7.9 情報

情報機能は、製品名、バージョン、ハードウェア、シリアル番号など、MaxiSys 診断デバイスの情報を提供します。

➤ **情報で MaxiSys 製品情報を確認するには**

1. MaxiSys プログラムメニューの設定アプリケーションをタップします。
2. 左側の列の[バージョン情報]オプションをタップします。右側に製品情報画面が表示されます。
3. 左上隅のホームボタンをタップして MaxiSys プログラムメニューに戻るか、システムセットアップ用の別の設定オプションを選択します。

8 VCIマネージャー

「VCI管理」アプリケーションは、Bluetoothを介してMS 906 Proタブレット診断デバイスとV200デバイス間の通信を管理し、両方の接続ステータスも表示します。



図141 - 「VCI管理」インターフェース図

左側のメニューバーには、次の4つのオプションがあります。アイテムの右側に接続状態が表示されます。

- **VCI Bluetooth**-右側の接続ステータスは、V 200デバイスとペアリングされている場合は「接続済み」、ペアリングされていない場合は「未接続」と表示されます。
- **BAS Bluetooth** — BT 506デバイスとペアリングすると、右側の接続ステータスは「接続済み」と表示され、ペアリングされていない場合は「未接続」と表示されます。
- **VCIアップデート-Bluetooth経由**でV200をMS906Pro / MS906 Pro-TSタブレット診断デバイスに接続した後、インターネット経由でVCIファームウェアをアップデートします。
- **BASアップデート**-BT506をBluetooth経由でMS906Pro / MS906 Pro-TSタブレット診断デバイスに接続した後、インターネット経由でVCIファームウェアをアップデートします。

8.1 VCIBluetooth接続

Bluetoothペアリングは、ワイヤレスで接続するための基本的な方法です。V 200デバイスは、同期ペアリングプロセス中に電力が供給されたままになるように、車両または使用可能な電源に接続する必要があります。MS 906 Pro / MS906 Pro-TSタブレット診断デバイスに十分なバッテリー電力があるか、AC/DC電源に接続されていることを確認してください。

➤ V200デバイスをMS906Proタブレット診断デバイスとペアリングする方法

1. MS 906 Pro /MS906Pro-TSタブレット診断デバイスの電源を入れます。
2. V200の16ピンピンの端を車両診断ソケットに接続します。
3. MaxiSysプログラムメニューの[VCI管理]アプリケーションをクリックします。
4. 左側のメニューバーの[VCIBluetooth]をクリックします。
5. 「Bluetooth」スイッチを押して[ON]にします。右上の[スキャン]ボタンをクリックします。その後、デバイスは利用可能なペアデバイスの検索を開始します。
6. 使用するVCIのタイプによっては、デバイス名がMaxi-plusシリアル番号として表示される場合があります。ペアリングする対象デバイスを選択してください。
7. ペアリングが成功すると、デバイス名の右側の接続ステータスが「接続済み」と表示されます。
8. 数秒後、インターフェースの下部にあるナビゲーションバーの[VCI]ボタンに緑色のロゴが表示されます。これは、タブレット診断デバイスがV200デバイスに接続されたことを示します。
9. ペアリングされたデバイスをもう一度タップして、ペアリングを解除します。
10. 左上の[戻る]アイコンをクリックすると、MaxiSysプログラムメニューに戻ります。

🔗 ヒント

V 200デバイスは、一度に1つのタブレット診断デバイスとのみペアリングされます。正常にペアリングされると、V200デバイスは他のデバイスで検索できなくなります。

8.2 BASBluetooth接続

ペアリングを実行する前に、BT 506デバイスを車両または使用可能な電源に接続して、同時ペアリングプロセス中に電力を供給し続ける必要があります。MaxiSysタブレットのバッテリーが完全に充電されているか、AC/DC電源に接続されていることを確認してください。

8.3 VCIアップデート

アップデートモジュールは、MaxiSys 906Pro タブレットの最新のアップデートを提供します。VCI ソフトウェアをアップデートする前に、タブレットのBluetooth接続が安定していることを確認してください。

➤ VCIデバイスファームウェアを更新する方法

1. MS 906 Proタブレットの電源を入れます。
2. BluetoothまたはUSBケーブルを介してV200デバイスをMS906Pro タブレットに接続します。
3. MaxiSysプログラムメニューの[VCI管理]アプリケーションをクリックします。
4. 左側のメニューバーの[VCIアップデート]をクリックします。
5. V200ファームウェアの現在および最新バージョンが表示されます。[今すぐ更新]をクリックしてV200ファームウェアを更新します。

8.4 BASアップデート

BT506を更新する前に、MaxiSysタブレット診断デバイスネットワークが安定していることを確認してください。

➤ BT506の更新方法

1. MS 906 ProタブレットとBT506デバイスの電源を入れます。
2. BT506デバイスをUSBまたはBluetooth経由でMS906Proタブレットに接続します。
3. MaxiSysプログラム管理の[VCI管理]アプリケーションをクリックします。
4. 左側のメニューバーの[BASUpdate]をクリックします。
5. BT506ソフトウェアの最新バージョンが表示されます。[今すぐ更新]をクリックしてBT506を更新してください。

9 更新

ファームウェアと呼ばれる MaxiSys 診断システムの内部プログラミングは、アップデートアプリケーションを使用して更新できます。ファームウェアの更新は、通常、データベースに新しいテスト、新しいモデル、または拡張アプリケーションを追加することにより、MaxiSys アプリケーションの機能を向上させます。

ディスプレイデバイスは、インターネットに接続されているときに、すべての MaxiSys コンポーネントで利用可能な更新を自動的に検索できます。見つかった更新はすべてダウンロードしてデバイスにインストールできます。このセクションでは、MaxiSys 診断システムファームウェアへの更新のインストールについて説明します。設定アプリケーションで通知機能が有効になっているときに更新が利用可能かどうかを通知メッセージが表示します。



図 9-1 アップデート画面のサンプル


①ナビゲーションとコントロール

- ホームボタン — MaxiSysのメインメニューに戻ります。
- すべて更新 —すべてのタブレットシステムで利用可能な更新。
- リフレッシュ —現在のページを更新します。
- 検索バー -Vehicle makeなどのファイル名を入力して、特定の更新アイテムを検索します。

②ステータスバー

- 左-AutellIDを表示します。
- 右-完了ステータスを示す更新プログレスバーを表示します。

③メインインターフェース

- 左の列-車両のロゴと更新されたファームウェアバージョン情報を表示します。
- 中央の列-ファームウェアを更新するた  の新機能を紹介します。クリックボタンをクリックして情報インターフェイスを開き、詳細を表示します。周囲の暗い領域をクリックして情報インターフェイスを閉じます。
- 右の列-各更新項目の動作ステータスに応じて、異なるボタンが表示されます。
 - a) **[取得]**をクリックして、選択したアイテムを更新します。
 - b) **[一時停止]**をクリックして、更新プロセスを一時停止します。
 - c) **[続行]**をクリックして、一時停止した更新を再開します。

➤ ソフトウェアを更新する方法

1. MaxiSysタブレット診断デバイスを起動し、デバイスが電源に接続され、インターネット接続が安定していることを確認します。
2. MaxiSysプログラムメニューで**[更新]アプリケーションを選択する**か、受信した更新通知メッセージをクリックして「更新」アプリケーションインターフェイスを開きます。
3. 利用可能なすべてのアップデートを確認するには、アイテムの右側の列にある**[取得]ボタンをクリックします。**
4. **[一時停止]ボタン**をクリックして更新プロセスを一時停止し、**[続行]ボタン**をクリックして更新を続行します。
5. 更新プロセスが完了すると、システムはソフトウェアを自動的にインストールします。新しいファームウェアが元のソフトウェアに置き換わります。

10 サポート

このアプリケーションは、Autel のオンラインサービスベースステーションを MaxiSys タブレットと同期するサポートプラットフォームで起動します。デバイスをオンラインアカウントに同期するには、初めて使用するときにインターネット 経由で製品を登録する必要があります。サポートアプリケーションは、Autel のサービスチャネルとオンラインコミュニティに接続されており、問題を解決するための最速の方法を提供します。これにより、苦情やヘルプリクエストを送信して直接サービスとサポートを受けることができます。

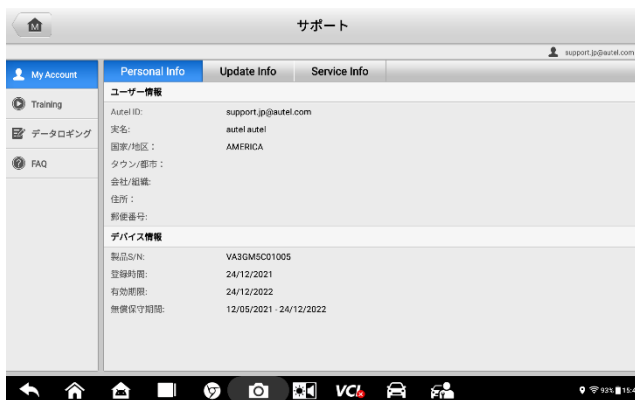


図 10-1 サポートサンプル

10.1 マイアカウント

[マイアカウント]画面には、個人情報、更新情報、サービス情報など、オンラインで登録されたアカウントと同期されたユーザーと製品の包括的な情報が表示されます。

10.1.1 個人情報

ユーザー情報とデバイス情報はどちらも個人情報セクションに含まれています。

- **ユーザー情報** - Autel ID、名前、住所、その他の連絡先情報など、登録済みのオンライン Autel アカウントの詳細情報を表示します。
- **デバイス情報** - シリアル番号、登録日、有効期限、保証期間など、登録済みの製品情報を表示します。

10.1.2 更新情報

[更新情報]セクションには、製品のシリアル番号、ソフトウェアのバージョンまたは名前、更新時刻など、製品のソフトウェア更新履歴の詳細なリストが表示されます。

10.1.3 サービス情報

[サービス情報]セクションには、デバイスのサービス履歴情報の詳細なレコード リストが表示されます。デバイスが修理のために Autel に返送されるたびに、デバイスのシリアル番号と、エラーの種類、変更されたコンポーネント、システムな どの詳細な修理情報が表示されます。再インストールは記録され、関連するオンライン製品アカウントに更新され、サービス情報セクションに同期されます。

10.2 トレーニング

「トレーニング」機能は、Aotongのオンラインビデオアカウントへのクイックリンクを提供し、製品と車の診断の使用方法を学ぶためにすべてのオンラインビデオチュートリアルを表示できます。

10.3 データレコード

データログセクションは、診断システム上のすべてのフィードバック (送信済み)、フィードバックではない (ただし保存済み)、または履歴 (最新の 20 のテストレコードまで) のデータログの記録を保持します。サポート担当者は、サポートを通じて送信されたレポートを受信して処理します。プラットフォーム。ソリューション 127 は 48 時間以内に返送されます。問題が解決するまで、サポートに連絡し続けることができます。



図 10-2 データロギング画面のサンプル

10.4 FAQ

FAQ セクションには、Autel のオンラインメンバーアカウントの使用とショッピング 128 グおよび支払い手順に関してよくある質問と回答のすべての包括的なリファレンスが記載されています。

- **アカウント** -Autelのオンラインユーザーアカウントの使用に関する質問 と回答を表示します。
- **ショッピングと支払い**-オンラインでの商品の購入と支払いの方法または手順に関する質問と回答を表示します。

11 リモートデスクトップ

リモートデスクトップアプリケーションは、TeamViewer Quick Support プログラムを起動します。これは、シンプルで高速かつ安全なリモートコントロールインターフェイスです。このアプリケーションを使用して、Autel のサポートセンター、同僚、または友人から、TeamViewer ソフトウェアを介して PC 上の MaxiSys タブレットを制御できるようにすることで、アドホックリモートサポートを受けることができます。

11.1 操作

TeamViewer 接続が電話として使用されている場合、TeamViewer ID は電話番号であり、すべての TeamViewer の顧客はこの番号で個別に電話をかけることができます。TeamViewer ソフトウェアプログラムを実行しているコンピュータとモバイルデバイスは、グローバルに一意の ID 番号で識別できます。「リモートデスクトップ」アプリケーションを初めて起動すると、TeamViewer ソフトウェアはデバイスの特性に基づいて永続的な ID 番号を自動的に生成します。タブレットがサードパーティからリモートサポートを受けることができるように、「リモートデスクトップ」アプリケーションを起動する前に、必ずデバイスをインターネットに接続してください。

🔗 ヒント

リモートデスクトップアプリケーションを起動する前に、タブレットがサードパーティからリモートサポートを受けることができるように、デバイスがインターネットに接続されていることを確認してください。

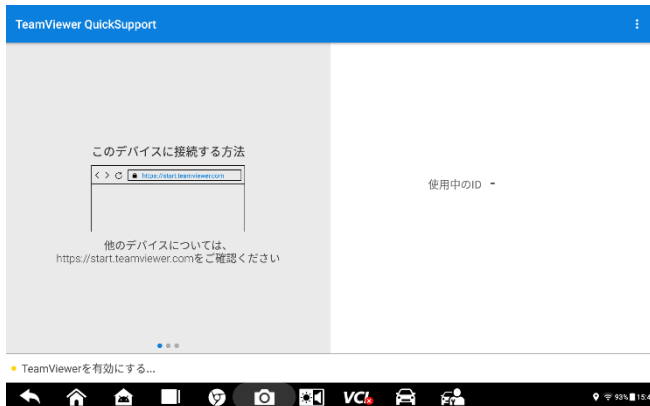


図171 - リモートデスクトップ画面のサンプル

➤ パートナーからリモートサポートを受ける方法

1. MaxiSysプログラムメニューの[リモートデスクトップ]アプリケーションを

クリックしてTeamViewerインターフェイスを開き、生成されたデバイスIDを表示します。

2. パートナーは、TeamViewerのフルバージョンをダウンロードしてTeamViewerの公式Webサイト (<http://www.teamviewer.com>) にインストールし、リモート操作サポートを提供するために、コンピュータでTeamViewerソフトウェアを実行する必要があります。
3. TeamViewerによって生成されたデバイスIDをパートナーに提供し、相手がリモートコントロール要求を送信するのを待ちます。
4. リクエストを受信すると、ウィンドウがポップアップ表示され、確認して相手がデバイスをリモートで制御できるようにするよう求められます。 **[許可]** をクリックして承認するか、 **[拒否]** をクリックして拒否します。

12 苦情

[苦情]画面では、新しい苦情ケースを作成したり、過去の苦情記録を表示したりできます。

➤ 新しい顧客の苦情ケースを作成する方法

1. MaxiSysプログラムメニューの[ユーザーフィードバック]アプリケーションをクリックします。デバイス情報はオンラインアカウントと自動的に同期されます。



図 12-1 苦情画面のサンプル

2. 「電話/メール」、「フィードバックの種類」、「件名」、「問題の説明」などの関連情報を入力します。オーディオファイル、画像、またはPDFファイルを添付できます。
3. [送信]をクリックすると、データがDaotong OnlineServiceCenterに送信されます。カスタマーサービスのスタッフは、あなたが提出したフィードバックを注意深く読み、処理します。

13 Maxi Viewer

Maxi Viewerを使用すると、ツールでサポートされている機能とバージョン情報を検索できます。検索には、ツールと車両を検索する方法と、機能を検索する方法の2つがあります。

➤ 車両の検索方法

1. MaxiSys プログラムメニューで Maxi Viewer アプリケーションをタップします。Maxi Viewer アプリケーション画面が表示されます。
2. 左上隅のドロップダウンデバイスリストをクリックして、必要なツールを選択します。
3. ご希望の車種、モデル、年式を選択してください。
4. 選択した車両に対して選択したツールでサポートされているすべての機能が、機能、サブ機能、バージョンの 3つの列に表示されます。

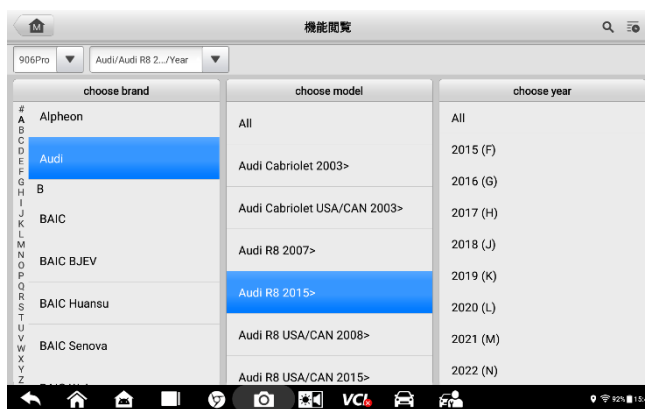


図 13-1 関数ビューア画面のサンプル

➤ 機能を検索する方法

1. MaxiSys プログラムメニューで Maxi Viewer アプリケーションをタップします。Maxi Viewer アプリケーション画面が表示されます。
2. 左上のツール名をタップしてツールリストをドロップダウンし、検索するツール名をタップします。
3. 右上の検索ボックスに検索したい機能を入力します。画面には、この機能をサポートするすべての車両が、車両の年式、システム、容量、タイプ、機能、サブ機能、バージョン。

🔍 ヒント

あいまい検索がサポートされています。関数関連のキーワードの一部を入力して、利用可能なすべての情報を検索してください。

14 HD内視鏡

Maxi Video アプリケーションは、タブレットを Maxi Video カメラに接続するだけで、デジタルビデオスコープとして動作するように MaxiSys 診断デバイスを構成します。この機能により、通常は視界から隠されている到達困難な領域を検査でき、デジタル静止画像やビデオを記録する機能により、機械、設備、インフラストラクチャを安全かつ迅速に検査するための経済的なソリューションを提供します。

警告と重要事項:

感電、絡み合い、その他の原因による怪我のリスクを減らし、工具の損傷を防ぐために、これらの指示に従ってください。

- イメージャヘッドとケーブルを、充電中の電荷や可動部品が含まれている可能性のある場所に置かないでください。感電や絡まりによる怪我のリスクが高まります。
- イメージャヘッドケーブルを使用して、周囲を変更したり、通路を空けたり、目詰まりしたりしないでください。
- 点検が終了したら、イメージャヘッドケーブルを点検エリアから慎重に引き抜いてください。
- イメージャヘッドケーブルは 3m (10') の深さまで防水です。深さが深くなると、イメージャヘッドケーブルに漏れが発生し、感電や工具の損傷を引き起こす可能性があります。
- イメージングヘッドの動作温度は0~45°C (32~113 °F) です。

以下の手順に従って確認してください。

- **車両:** 検査中は車両が静止していることを確認してください。ボンネットの下の高温の金属や液体を避け、イメージングヘッドを石油やガソリンから遠ざけてください。イメージャヘッドケーブルは 3m (10') の深さまで防水です。深さが深くなると、イメージャヘッドケーブルに漏れが発生し、感電や工具の損傷を引き起こす可能性があります**壁:** 内壁をチェックするときは、ツールを使用する前に、家全体の回路ブレーカーがオフになっていることを確認してください。
- **作業エリア:** 作業エリアが十分に照らされていることを確認してください。

14.1 追加のオプションのアクセサリ

14.1.1 HD 内視鏡カメラ

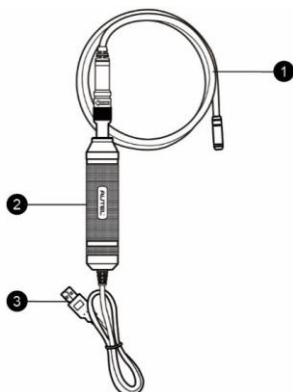


図211MaxiVideo カメラ

- ① リムーバブルイメージャヘッドケーブル-画像およびビデオ表示用の Maxi Videos を実行するときにツールに接続します。
- ② ハンドグリップ-人間工学に基づいて設計されたハンドルで、快適なグリップ と俊敏な操作を実現します。
- ③ USB ケーブル-Maxi Video カメラを MaxiSys タブレットに接続します。

14.1.2 カメラアクセサリ

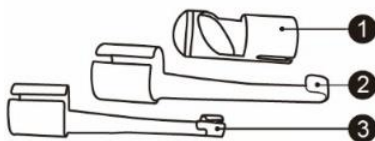


図 14-1 8.5mm イメージャヘッドアクセサリ

- ①磁石-落としたりリングやネジなどの小さな金属物を拾います。
- ②フック-エラー物の詰まりを取り除き、パイプまたは限られた領域のワイヤーを拾います。
- ③ミラー-目視できない領域を確認するのに役立ちます。

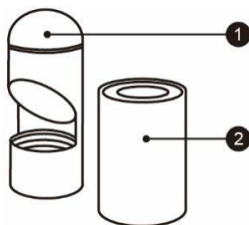


図 14-2 5.5mm イメージングヘッドアクセサリ—サリ

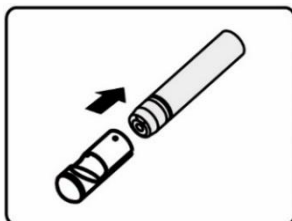
- ① ミラー—目視できない領域を確認するのに役立ちます。
- ② 磁石—落としたリングやネジなどの小さな金属物を拾います。

14.1.3 付属品の組み立て方法

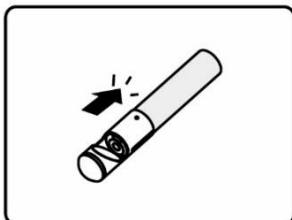
8.5mmイメージングヘッド

マグネット、フック、ミラーを含む 3つのアクセサリは、以下に説明するのと同じ方法でイメージャヘッドに取り付けることができます：

1. アクセサリとイメージングヘッドを持ちます。



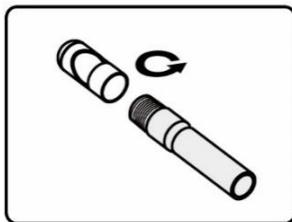
2. アクセサリの一方の端をイメージングヘッドにスライドさせてから、アクセサリを固定します。



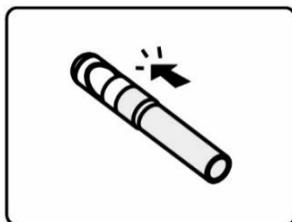
5.5mmイメージングヘッド

マグネットとミラーを含む 2つのアクセサリは、以下に説明するのと同じ方法でイメージャヘッドに取り付けることができます：

3. アクセサリとイメージングヘッドを持ちます。



4. アクセサリのネジ部分をイメージングヘッドにねじ込み、アクセサリを固定します。



14.1.4 技術仕様

表211-技術仕様

項目	説明
最適な表示距離	直径 8.5mm のカメラ: 2.54cm から 35.56cm 直径 5.5mm のカメラ: 0.95cm から 30cm
解決	解像度 JPG 画像 (640x480) AVI ビデオ (320x240)
動作温度	主成分: 0°C~55°C (環境) プローブチューブ: -10°C~70°C
保管温度	-20°C~75°C (環境)
防水	カメラとプローブチューブ: 1m
重量	直径 8.5mm のカメラ: 0.3kg 直径 5.5mm カメラ: 0.2kg

14.2 操作

Maxi Video アプリケーションを開く前に、イメージヘッドケーブルを USB ポートを介してタブレットに接続する必要があります。特定のニーズに応じて、正しいイメージヘッドアクセサリを取り付けてください。

🔗 ヒント

動作中は、イメージヘッドケーブルを操作して、限られたスペースや扱いにくいスペースにアクセスしやすくすることができます。

➤ 「HD内視鏡」アプリで写真を撮る方法

1. イメージングヘッドケーブルをMS906Pro /MS906Pro-TSタブレット診断デバイスの上部にあるUSBポートに接続して接続します。
2. M S906 Proタブレット診断デバイスの電源を入れます。
3. MaxiSysプログラムメニューの**[HD内視鏡]**アプリケーションをクリックして、カメラ操作インターフェースに入ります。デフォルトのカメラはイメージングヘッドです。
4. イメージングヘッドを調整して適切に配置することにより、ファインダーでキャプチャする画像の焦点を合わせます。
5. 右側の**[カメラ]アイコン**をクリックして撮影してください。
6. 左にスワイプすると、画像が1つずつ表示されます。
7. 画面下部の「ナビゲーションバー」の**[戻る]**または**[ホーム]**ボタンをクリックして、「HD内視鏡」アプリケーションを終了します。

➤ 「HD内視鏡」アプリでビデオを録画する方法

1. イメージングヘッドケーブルをMS906Proタブレット診断デバイスの上部にあるUSBポートに接続して接続します。
2. M S906 Proタブレット診断デバイスの電源を入れます。
3. MaxiSysプログラムメニューの**[HD内視鏡]**アプリケーションをクリックして、カメラ操作インターフェースに入ります。デフォルトのカメラはイメージングヘッドです。
4. **[カメラ]アイコン**をクリックすると、ビデオ録画モードに切り替わります。
5. イメージングヘッドケーブルを正しく配置して、記録するシーンに焦点を合わせます。
6. 操作インターフェースの右側にある赤い丸をクリックして、録音を開始します。
7. 赤い丸をもう一度クリックして録画を停止すると、録画されたビデオがシステムギャラリーに自動的に保存されます。
8. 画面を左にスワイプすると、ビデオファイルが1つずつ表示されます。
9. 画面下部の「ナビゲーションバー」の**[戻る]**または**[ホーム]**ボタンをクリックして、「HD内視鏡」アプリケーションを終了します。

15 オシロスコープ

MaxiSysタブレット診断デバイスをオシロスコープモジュールとともに使用すると、オシロスコープアプリケーションは車のオシロスコープとして動作します。この機能は、電気および電子回路テストを実行するために必要なすべての機能を提供し、最新の車両の信号アクティビティを監視して、車両の電気システムで実際に何が起きているかを示します。

Autelオシロスコープ機器の最新のユーザーマニュアルをwww.auteltech.cnからダウンロードしてください。（www.auteltech.cn >製品センター>その他の製品> Max iScope MP408 >手動ダウンロード）

16 クイックリンク

クイックリンクアプリケーションを使用すると、Autel の公式 Web サイトや、自動車サービスの他の多くの有名なサイトに簡単にアクセスできます。このサイトでは、技術ヘルプ、ナレッジベース、フォーラム、トレーニング、専門家によるコンサルティングなど、豊富な情報とリソースを提供しています。

➤ クイックリンクを開く方法



図 16-1 クイックリンク画面のサンプル

1. MaxiSys プログラムメニューの[クイックリンク]をタップします。クイックリンクアプリケーション画面が表示されます。
2. メインセクションからウェブサイトのサムネイルを選択します。Chrome ブラウザが起動し、選択したウェブサイトが開きます。

17 メンテナンスとサービス

MaxiSys 診断タブレットと VCI デバイスが最適なレベルと状態を維持できるようにするには、この章に記載されているメンテナンス手順を注意深く読み、それに従って製品をメンテナンスすることをお勧めします。

17.1 メンテナンス方法

以下に、機器のメンテナンス方法と注意事項について説明します。

- 柔らかい布とアルコールまたは中性洗剤を使用して、タブレットのタッチスクリーンを清掃します。
- タブレットに研磨剤、洗剤、自動車用化学薬品を使用しないでください。
- デバイスを乾燥した状態に保ち、通常の動作温度内に保ちます。
- タブレットを使用する前に手を乾かしてください。タッチスクリーンが湿っていたり、濡れた手でタッチスクリーンをタップしたりすると、タブレットのタッチスクリーンが機能しないことがあります。
- 湿気の多い場所、ほこりの多い場所、汚れた場所にデバイスを保管しないでください。
- 使用の前後に、ハウジング、配線、コネクタに汚れや損傷がないか確認してください。
- 毎日の終わりに、湿らせた布でデバイスのハウジング、配線、およびコネクタをきれいに拭きます。
- 自分でデバイスを分解しようとししないでください。
- デバイスを落としたり、強い衝撃を与えたりしないでください。
- 認可されたバッテリー充電器とアクセサリのみを使用してください。許可されていないバッテリー充電器とアクセサリの使用によって引き起こされた誤動作または損傷は、限定製品保証を無効にします。
- バッテリー充電器が導電性の物体から離れていることを確認してください。
- 信号の干渉を防ぐために、電子レンジ、コードレス電話、および一部の医療機器や科学機器の近くでデバイスを使用しないでください。

17.2 トラブルシューティングチェックリスト

- A. タブレットが正常に動作しない場合:
- タブレットがオンラインで登録されていることを確認してください。

- システムソフトウェアと診断アプリケーションソフトウェアが適切に更新されていることを確認してください。
 - タブレットがインターネットに接続されていることを確認してください。
 - すべてのケーブル、接続、およびインジケータをチェックして、信号が受信されているかどうかを確認します。
- B. バッテリーの寿命が通常より短い場合:**
- これは、信号強度の低いエリアにいるときに発生する可能性があります。使用していない場合はデバイスの電源を切ります。
- C. タブレットの電源をオンにできない場合:**
- タブレットが電源に接続されているか、バッテリーが充電されていることを確認してください。
- D. タブレットを充電できない場合:**
- 充電器がエラーしている可能性があります。最寄りの販売店にお問い合わせください。
 - デバイスを過度の高温/低温で使用しようとしている可能性があります。涼しい場所や暖かい場所でデバイスを充電してください。
 - デバイスが充電器に正しく接続されていない可能性があります。コネクタを確認してください。

❗ ヒント

問題が解決しない場合は、Autel のテクニカルサポート担当者または最寄りの販売代理店にお問い合わせください。

17.3 バッテリー使用量

この製品は、内蔵のリチウムイオンポリマー二次電池を搭載しています。

⚠ 危険

- 内蔵のリチウムイオンポリマー電池は、メーカーのみが交換できます。電池を自分で交換しないでください。電池を誤って交換すると、爆発の原因となる可能性があります。
- 損傷した充電器を使用しないでください。
- 押しつぶしたり、曲げたり、変形したり、穴を開けたり、細断したりしないでください。
- 付属の充電器と USB ケーブルのみを使用してください。Autel 認定の充電器や USB ケーブルを使用しないと、デバイスの誤動作やエラーの原因となる場合があります。
- 認定されていないバッテリーまたは充電器を使用すると、火災、爆発、漏れ、またはその他の危険が生じる可能性があります。

- タブレットを落とさないでください。タブレットを特に硬い表面に落とした場合、ユーザーが損傷を疑う場合は、点検のためにサービスセンターに持ち込んでください。
- ネットワークのワイヤレスルーターに近いほど、接続に使用されるバッテリー電力が少なくなるため、タブレットの使用時間が長くなります。
- バッテリーの充電時間は、バッテリーの残量によって異なります。
- バッテリーの寿命は、時間の経過とともに必然的に短くなります。
- 過充電はバッテリーの寿命を短くする可能性があるため、完全に充電されたらタブレットを充電器から取り外します。充電が完了したら、充電器を取り外します。
- 特に夏や冬に車の中や暑い場所や寒い場所にタブレットを放置すると、バッテリーの容量と寿命が短くなる場合があります。バッテリーは常に常温に保ってください。

17.4 サービス手順

このセクションでは、技術サポート、修理サービス、および交換部品またはオプション部品の申請に関する情報を紹介します。

17.4.1 技術サポート

この製品の操作中に質問や懸念がある場合は、次のことを行ってください。

- **Autel APAC:** 電話番号:045-548-6282
Mail:support.jp@autel.com
- お近くの販売店または代理店にお問い合わせください
- pro.autel.comまたはwww.auteltech.cnにアクセスしてください

17.4.2 修理サービス

修理のためにデバイスを返却する必要がある場合、www.autel.com から修理サービスフォームをダウンロードし、フォームに記入してください。次の情報を含める必要があります。

- 連絡先名
- 返品住所
- 電話番号
- 商品名
- 問題の完全な説明
- 保証修理のための購入証明

デバイスをローカルエージェントまたは次のアドレスに送信します。

6階、No. 1、EVOC Zhigu Chuangxiangdi、Gaoxin West Road、Guangming New District、Shenzhen

17.4.3 その他のサービス

オプションのアクセサリは、Autel の認定ツールサプライヤー、および/または最寄りの販売代理店または代理店から直接購入できます。

注文書には、次の情報が含まれている必要があります。

- 連絡先
- 製品名または部品名
- アイテム説明
- 購入数量

18 保証

1年間の限定保証

Autel Intelligent Technology Corp.Ltd. (当社) は、この MaxiSys 診断デバイスの最初の小売購入者に対し、通常の使用中および通常の条件下で、この製品またはその一部が、製品のエラーにつながる材料または仕上がりに欠陥があることが証明された場合保証します。購入日から 12か月以内に、そのような欠陥は、当社の選択により、修理または購入証明と交換（新しい部品または再構築部品でされます）。

当社は、デバイスの使用、誤用、または取り付けに起因する偶発的または間接的な損害について責任を負いません。一部の地域では、保証期間の制限を許可していません。そのため、上記の制限が適用されない場合があります。

この保証は以下には適用されません：

1. 異常な使用または状態、事故、誤操作、放置、無許可の変更、誤用、不適切な設置または修理または不適切な保管を受けた製品。
2. 機械的シリアル番号または電子シリアル番号が削除、変更、または破損された製品。
3. 過度の温度または極端な環境条件への暴露による損傷。
4. 当社が承認または承認していないアクセサリまたはその他の製品への接続、または使用から生じる損傷。
5. 外観、化粧品、装飾品、または構造部品（フレーム部品や非動作部品など）の欠陥。
6. 火災、汚れ、砂、バッテリーの漏出、切れたヒューズ、盗難、または電源の不適切な使用などの外部原因により損傷した製品。

❗ 知らせ

製品のすべての内容は、修理の過程で削除される場合があります。保証サービスのために製品を提供する前に、製品の内容のバックアップコピーを作成する必要があります。
